

日本女子大学社会福祉学科50年史(四)

— 家政科管理科・社会福祉科,

家政学部社会福祉学科時代—

社会福祉学科50年史編纂委員会

はじめに

この号では、戦時中、家政科管理科へ入学し戦後卒業した人、ひきつづき家政学部社会福祉学科（新制大学以前は家政科社会福祉科）へ名称をかえ、新たな歩みをはじめた学科の卒業生を中心にまとめた。しかし、歴史というには余りにも身近なうえに、資料発掘も不十分であり省察も又充分でない。したがってむしろ一種の資料集としてお考えいただきたい。

昭和19年（1944年）入学の学生から、昭和33年（1948年）卒業の学生迄、それらの人々が、すごしてきた時代は、周知の通り、激動期であり、社会福祉の展開においても、激変した時期であった。とりわけ、敗戦をさかいに、占領軍による指導にもとづいて、社会事業教育が再発足したのは昭和21年（1946年）であり、その間の学内、外の具体的な史料は、今回省略するが、それをうけとめた学生の意識や所感は、この稿のなかでも、十分に読みとれるところであろう。

私どもの調査に対しての回答率が必ずしも高くはない点が、誠に残念であるが、一応、その他のものとともに集録しておく。

なお、この集録にあたって注意した点は、前号にひきつづきつぎの点である。

(1) 集録した資料は、おもに日本女子大学内のものと、今回家政科管理科・社会福祉科、家政学部社会福祉学科時代の卒業生に対して行った調査から得たものである。印刷の関係上、主要なものだけを掲載した。

1. 家政科管理科移行への意図と経過

昭和19年度から、どのような意図とねらいで、家政科管理科へ移行したかは、学園史によると、つぎのように記してある。

「文部省において専門教育が刷新せられることになったのは昨年の夏前で、当時専門教育刷新協議会が開催せられ、男女専門学校長会議があったのにはじまり、のち、女子部会が開かれ、ここにおいて特に女子専門教育の刷新原案がねられるにいたり、大体の要綱が出

来あがったのである。この文部省案に準拠して本校学制度も刷新するところあり、これを申請許可をえたので、四月の新学年度より新制度による教育が開始されようとしているわけである。

何故にかく女子専門教育刷新のことが提案されるにいたったかは、いうまでもなく、時局下情勢の緊迫と共に、十九才以上の男子学徒は出征して第一線に立ち、銃後の各方面において女子が代替するようになったので、専門教育は国内あらゆる面でこの要求を充たさざるをえないときが来たのであり、従って、出来るかぎり教育も重点的に必要な学科を短い年月に課することによって一日も早く国家要請に即応せねばならなくなった。従来女子専門学校といえば、主として家事、裁縫、国文、美術、医学、薬学等の部門に限っていたが、これに工科、理科、農芸、法律、商業等を加えて、部門の範囲は急速に拡大された。（中略）つぎに刷新案の大きな特色は、いかなる学科目にも共通学科を作ったことである。それは一つには国体観念の明徴と、婦道発揚を期して「道義」の科目を課したことであり、また、「人文」という共通科目により、古典、国文の味読、国史の体認を基礎とし、肇国精神の把握、国家の文化の精髓を考察し、文化の推移を弁えしめ、国家経綸に対する、識見を養わせようとしている。

つぎは「家政学」を全般的に加え、その他、体練、修練の時間が加えられた。いかなる学科を専攻しても、これらを修め、国民として、また皇国女性としての使命を完うすることに重点を置くのである。」

この改革の骨子に基づいて新制度を編成した。（下略）。

資料

日本女子大学学園史二編纂委員会編『日本女子大学学園史二』日本女子大学 昭和43年6月 71～72頁

このような新制度のもとで昭和十九年度は改正された新学制によって発足した。

家政科 育児科
保健科
管理科

家政 物理化学専攻
理科 生物農芸専攻

文 科 国語科、
歴史科
外国語科（英語）

管理科は以上の動向のまさに一学科として発足したのであった

また管理科が昭和21年度より、家政学部社会福祉科に改組され、どのような経過で新展開したかは、当時、学科長としてその責任をとっておられた菅支那先生の、日本社会福祉学会誌「社会福祉学Ⅰ」のつぎの記事が参考となる。

「昭和8年、社会事業学部の科目は多少変更されて学政学の教科目が増えられ、越えて昭和19年には、戦時中の必要に応ずるため、労務管理関係の科目がつけ加えられた。

もちろん、終戦と共に日本の状況は大変革し、時代の要請に答えて、官学より一歩先きに日本女子大学は新制女子大学として承認された。戦争直後は家政学部に属する社会福祉学科として再出発した。」

2. 当時のカリキュラムと教授陣

家政管理科のカリキュラムは学園史によると次のように紹介されているが実際は、多少これと異ったカリキュラムで行われていたということである。

家政科管理科カリキュラム表

学 科 目	担 当 者	毎週教授 時 数		
		第1学年	第2学年	第3学年
道義（実践倫理）	市村今朝蔵 桐原	2	2	2
人 文		2	2	2
教 育		2	2	2
家 政		10	10	10
生理衛生・看護		3	3	—
簿 記		—	—	2
統 計		—	2	—
経 済		2	—	—
国 家		2	—	—
産 業		2	—	—
勤 労		—	2	5
産 業		—	2	—
社 会		—	2	—
農 村		—	—	2
厚生施設・研究実習		3	3	5
（第1班）外国語		3	3	3
（第2班）家政実習		3	3	3
体 練		3	3	3
修 練		5	5	5
計		39	39	39

資料 日本女子大学学園史二 編纂委員会編 日本女子大学学園史二 日本女子大学 昭和43年6月 76頁

なお、当時は、学徒勤労動員のため、ほとんど開講されておらず、したがって担当者もさだかでない。

家政学部社会福祉学科カリキュラム表

講 座	学 科 目	単 位 数				担 当 者
		必 修	選 択	講 義	実 験	
第一講 座	社会事業学概論	4				早崎八州
	社 会 立 法	2				木田徹郎
	社会事業行政	2				〃
	社会思想史			4		高橋誠一郎
	社会心理学			4	1	南 博
	都市農村社会学			4		有賀喜左衛門
第二講 座	社会問題	4				小山栄三
	社会政策			4		
	社会事業施設論			2		松島正義
	精神衛生	2		2		井村恒郎
	公衆衛生	4				佐藤美実
	児童福祉	4				松島正義
第三講 座	家族論			2		
	職業指導	2				遊佐敏彦
	社会事業施設見学		2			前田大照
	ケース・ワーク	4				大島たね
	グループ・ワーク			2		竹内菊枝
	現場実習		4			平賀 孟
第四講 座	社会調査	2	2			高月東一
	社会統計	2	2			小山栄三
講 座 外	論文					
	社会学			2		
	英語演習			2		
	精神衛生			2		
	グループ・ワーク			2		

※ なお、この他、家政学部としての必修19単位を家政学関係からとることとなっていた。それは、下記の通りである。

家政学原論 2 単位
衣服学概論 3 単位
食物学概論 3 単位
住居学概論 3 単位
児童学概論 3 単位
家庭管理概論 4 単位

☆幸坂佐登子氏談（大照純子氏聞きとり）

昭和4年9月11月9日の午後鶴見のお宅に伺った。丁度善行寺から帰京されたばかりのところだった。

こゝ1年ほど90才を越えられた御母堂の御容態がはっきりせず数回も危篤状態に陥られたりで先生も地方の幸坂教室へのお出かけも御容態の様子をみては1～2日出かけられ、急いで帰京されたり、又一時は看病のお疲れで入院なさったりで本当に内外ともに御多忙な御生活だった。

1.管理科に関係された

1) きっかけ…井上校長が井上家の菩提所のことでお寺に関係の深い幸坂先生（先生の御母堂は泉岳寺のお嬢さん）に御相談なさったりしていた。

2) 井上、菅両先生から3～4日説得され。

3) 民法、憲法の講義を受け持たれた。

4) 昭和20年頃だったと思う

1.受講した学生は児童科、管理科

2.管理科の運営についてはリーダーとして関係した

3.当時の研究室のメンバーとしては、菅・松本・塩沢・前田・大照

4.当時の開講科目については覚えていないので、教務課で調べて頂きたい

5.当時の教授陣について

記憶がないので調べて頂きたい

6.当時の女子学生について

1) 印象…大人びていたこと例えばクラス会の司会など、悪びれずに落つき払って文学的美辞麗句を滔々と述べたりしていた。

・中には目立たないが立派な人もいた。

・独自の道を行くという感じ。

2) 学生とのふれあい…管理科の1回生が卒業の際数名の有志と「女性文化研究会」を作り毎週日曜の午前中から鶴見のお宅に神奈川、東京、千葉から集り、室内外の掃除から始めて、午後はお母様からお茶を教え頂き、時には総持寺に行って管長さんからお話を伺ったり当時お歌所客人だった方とお訪ねして教えを仰いだり、物資のない時代だったがお茶のお菓子も皆がさつま芋や粉などを利用して手作りしたものを持ち寄ったりして、兎に角一生懸命だった。会員が順次結婚するに及んで集会は消滅したが、いまだに何かの折には、一同集っている。

7学生の講義について

1) 何を教えておられたか…民法・憲法

2) 2年、3年を担当

3) 使用した教科書…自著

先生の略歴

明治36年東京都芝に生れる。女子大家政学部卒業後明治大学法学部英法科卒業、九州帝大文学部聴講を経て日本女子大教授。

文部省法律専門委員、教科書検定委員、米軍第8軍軍事法廷弁護人歴任。

現在、横浜家庭裁判所参与、調停委員、横浜市社会教育委員。

全国主たる都市に74ヶ所の幸坂教室を設けて法律政治常識講座を担当している。



幸坂佐登子先生の授業風景



昭和24年頃の研究室スタッフ

前列左側より、松本武子・菅支那・篠崎茂穂の各先生
後列左側より、吉田栄・大照純子・田宮良子・正田弥生の各先生



昭和30年頃のリーダーの先生たち

前列左側より、一番ヶ瀬康子・吉田栄の各先生
後列左側より、内山文子・田宮良子・吉沢英子
の各先生

3. 学生生活

当時の学生生活はどのようなものであったか。前号
で掲載した調査用紙を、若干修正し、当時の卒業生に
おくり、回収されたものを中心に以下の報告をする。
なお調査用紙の回収状況は次の通りである。

回収状況

回生	発送数	返信数	返送
45	65	10	2
46	83	14	2
47	35	6	2
48	7	4	
新制1	48	12	
2	61	13	1
3	42	6	
4	37	6	
5	56	16	
6	40	6	2
7	45	13	2
8	55	10	
計	574	116	11

A. 管理科，家政科社会福祉科，家政学部社会福祉 科入学時について

1. 出身地

A. 1. 出身地

	市	郡	計		市	郡	計
北海道	2	1	3	茨城	3		3
岩手	2		2	群馬	4		4
宮城		1	1	埼玉	4	1	5
福島	3	1	4	千葉	3	1	4

					市	郡	計
東京	48		48	岡山	1		1
神奈川	4		4	愛媛	2		2
新潟	3	1	4	福岡	4		4
富山	1	1	2	佐賀	1	1	2
福井		1	1	熊本	1		1
山梨	1	2	3	大分	1		1
長野	4		4	宮崎	2		2
岐阜		1	1	鹿児島	1	1	2
静岡	1		1	台湾	1		1
愛知	3	1	4				
大阪	1		1				
兵庫	1		1	合 計	102	14	116

2. 入学当時の両親の有無と職業

	有	無	計
父	108	8	116
母	111	5	116

3. 両親の職業

職業名	父	母	備 考
自営業	30	5	商業，建設業，醸造業，弁護士， 医士，農場経営，材木商，繊維 問屋，絹織物卸問屋，呉服，石 けん，機械靴製造
公務員	13	2	台北帝大教授，東工大教授，高 等学校長，高校教諭，小学校教 諭
会社員	21		
会社役員	20		
農業	3	1	
団体役員	3		
大学教授	2		
宗教家	2		
無職	2	90	
代議士	1		
その他	2	2	民生委員，保護司，家裁調停委 員，華道教授
無回答	1		
計	100	100	

3. 入学時の年令

年令	16	17	18	19	20	21	24	無回答	計
人員	15	28	56	13	1	1	1	1	116

4. 入学前は何をしていたか

学 生	91%	高女, 新制高校卒
他の学校より	2	高女専攻科, 商業学校
仕事をしていた	2	貿易会社勤務, 小学校教諭
1 年浪人	2	引揚げのため
家事手伝い	1	
そ の 他	2	1 年ピアノ勉強ほか
計	100	

入学時年令の18才が多いのは, 昭和22年に行なわれた学制の改革により新制高校卒業後新制大学としての学部入学のためである。

5. 誰が当学科を選んだか

自分で決めた			65%
すすめた人	父	母	その他(先生, 兄, 姉, 叔父, 叔母, 友人, 寮の上級生) 11%
	5%	5%	
転 科	3%		第2志望 11%

6. 管理科, 家政科社会福祉科, 家政学部社会福祉科を選んだ理由

- ・戦時中のため工場労務管理の必要上 5
- ・父が社会福祉に非常に関心をもっていた 3
- ・高等教育を受けることをすすめた 3
- ・単に女子大が好きである 2
- ・他科は4年制であったが管理科は3年制であった 7
- ・学科目に興味のあるものが多かった 3
- ・管理科という科名に惹かれ, 家政経済的実力をつけてみたいこと 2
- ・栄養調理と労務管理と両方勉強出来るため 6
- ・当時の社会状況から今後必要と感じて 3
- ・東北の農村地帯は当時封建的で福祉施設も少なく, 乙女心にもそのリーダーになりたい理想をもった 7
- ・社会的に大きな視野で物事を考えたかった 2
- ・社会事業を学びたかった 5
- ・社会学に興味を感じた 1
- ・父を早くなくし, 何か役に立つ人間にと思った 4
- ・第1希望は国文科であったが父母が家政科なら許すというので文科に近い社会福祉科をえらんだ 1
- ・社会福祉が他の女子の大学になかった 3
- ・少年非行に組みみたいと思った 4
- ・終戦直後で焼野原に浮浪児や戦災孤児の往きかう状況に何とかしたい気持ちが学科選択の背景

- にあった 4
- ・社会のために何かつくりたいという希望から 6
- ・社会科学系の勉強を希望したため 4
- ・当時の社会に不満を抱き, 勉学よりもむしろ自分をとりまく社会組織などを知りたかった 1
- ・法律から育児まで, 幅広い講義が受けられる 1
- ・新しい分野, 新しい学問をしたいと願った 2
- ・専門職として社会福祉を学びたかった 5
- ・先輩, 知人にすすめられて 6
- ・他科を志望したが第2志望になった 11
- ・特別理由なし 5
- ・無回答 6

7. 管理科, 家政科社会福祉科, 家政学部社会福祉

- 学科を何によって知ったか
- 規則書, 学校案内 50%
- 附属高校に在学していた 19
- 兄, 姉, 父にすすめられて 34
- 桜楓会員 43
- 他学部で在学していた 25
- 先輩から聞いて知っていた 13
- 進学案内書, 大学入試ガイド 26
- 新聞その他, 卒業生の社会的活躍 26
- 無回答 26
- 計 100%

8. 入学に対して家族の意見

	賛 成	反 対	無回答	計
父	83%	11%	6%	100%
母	81	13	6	100
その他	11	5	84	100

8. イ. 父賛成の理由

- ・本人の意志を尊重 30
- ・これからの女性は社会的知識が必要 7
- ・社会の中で能力を生かし役立つ人になるように 2
- ・学徒動員で勉強不足のため 3
- ・自分と同じ道をいくから(社会奉仕) 3
- ・女子大入学を希望していた 4
- ・女子は家政科で早く卒業出来る方がよい 1
- ・父も興味があり, 女性の自立に賛成 3

8. イ. 父反対の理由

- ・女性にふさわしいお稽古を習って早く家庭に入るように 2

- ・女の子に大学教育はいらない 2
- ・女子は結婚するものとし、なまじな知識は障害になる故家政科に行くようにすすめられた 1
- ・進歩的になりすぎて困る 1
- ・世間体を心配する 1
- ・当時のイメージとして苦勞させたくない 1
- ・女子も技術を持たねばと、薬学を専攻することをのぞむ 2
- ・法科、英文、国文をすすめた 3
- 8. ロ.母賛成の理由
 - ・本人の意志尊重 21
 - ・これからの女性は自分のものを持つことが大切だから 4
 - ・社会福祉に関心があった 4
 - ・社会の役に立つように 2
 - ・一応家政学部なので、家政面のみ重視した 3
 - ・女子大への進学をのぞむ 1
 - ・女性として大事なことを含んでいる 2
 - ・女子大を高く評価し、どの科でも良いという感じ 1
 - ・自分で選んだものは意欲的にやる 2
 - ・母の出た科であるため 1
 - ・女としてよい躰を受けるため 1
 - ・女子は早く卒業出来る方がよい 1
- 8. ロ.母の反対する理由
 - ・薬剤師をすすめた
 - ・結婚の条件を考えて家政学の方がよい 2
 - ・何も大学に行かなくとも 1
 - ・家事、育児に結びつくものを選ばせたかった 1
 - ・母の大学時代に思想的に過激な人が出たから
- 8. ハ.その他賛成の理由
 - ・姉自身が上級学校に進学出来なかったため 1
 - ・教育は必要である
 - ・大学に行くことに賛成
- 8. ハ.その他反対の理由
 - ・学問として確立していない 1
 - ・共産主義にかぶれるからと心配して 1
 - ・今こそ国文学を勉強した方がよいと云っていた 1
 - ・女性が大学に行くのと理くつばかり云ってどうしょうもなくなるから 1
 - ・女の子らしくない学科だから 1
 - ・英文科をすすめられた 1
- B. 在学時について
 - 1. 学校内の生活において
 - イ.良かったこと
 - ・多くのよき友を得たこと
 - ・素晴らしい講義をきけたこと
 - ・未知の分野についての講義は新鮮で深く心をうたれた
 - ・質実剛健の気風が身についたこと
 - ・寮生活を通しての助け合いがすべてに及んでいたこと。共同生活を身につけた
 - ・大きな意味で人世についての考え方を学んだ
 - ・戦時下の若者としては青春を満喫した
 - ・国家へ奉仕と云うことで小人数不完全な学生生活とは云え張りがあった
 - ・終戦時の混乱期に勉学出来たこと
 - ・先生、上級生出席の木旺会のあったこと
 - ・講師の先生が多くいろいろな個性ある方に接しられたこと
 - ・月謝が安かった。菅先生が好きだった
 - ・法制、産業心理、英語、哲学、心理など生き生きしたよい講義でした
 - ・講義は単位制でなく又選択でなかったのが良かった
 - ・なごやかな家庭的雰囲気寮生活が経験出来てすばらしかった
 - ・社会福祉について学んだこと
 - ・校章の示すごとく自由な雰囲気
 - ・やっと勉強が出来た、と思った
 - ・社会科学の勉強が出来た
 - ・物資不足が身にしみて感じなかった
 - ・5年間ゆっくりいられ、巾広く勉強出来たこと (新1)
 - ・社会心理学を学び一生の仕事がみつかった
 - ・三泉寮の生活、施設見学で各種の福祉施設を見ることができた
 - ・リーダーと年令的にもあまりひらきを感じず、自由に交流が出来てよかったと思う
 - ・専門学科以外にクラブ活動をしたことが良い思い出
 - ・同志的な気分があり、他学部より仲がよかった
 - ・積極的に自治会の生活も出来た
 - ・何事も積極的に前向きな姿勢を持つ友人が多く学

ぶべき点が多い

- ・新しい学問という事で先生、生徒が情熱的であった
- ・グループの研究、活動が出来たこと

ロ.後悔したこと

- ・全体的に、もっと学業に打込めばよかった
- ・語学の勉強をもっとすればよかった
- ・もっと本を読んでおけばよかった
- 45回生. 数学系、理科系に移りたかった
- ・混乱期のため、本当の勉強が出来なかった
- ・時代のせいにして積極的に学問を追求しなかった
- ・一年間位通学したかった

46回生. 学習内容不十分

- ・寮生活を一度したかった
- ・はじめての東京の寮生活で周囲の環境にキョロキョロしているうちに3年間終った感じ

47回生. 社会事業専門の勉強が不足した

- 48回生. 学習に奥義をきわめなかったこと
- ・専門的能力をつけるべきであった

新1回生. クラブ活動など活潑にできなかったこと

- ・学科目の内容の貧困さを知り後悔した

新2回生. 入学時教授の休講が多く続いたこと

- ・先生方と積極的に接し得なかったこと
- ・編物や礼法などつまらない学科があったこと

新3回生. 学問に対しての突込みが不足していた、又受身でありすぎた

新4回生. 小人数のゼミナール式授業などあればよかった

- ・現在はコンピューターの時代、当時そのことが我が国にも取り入れられて統計などでそれについての勉強や実際のことも深く勉強しておけばよかった

新5回生. 真剣さに欠けていた。広範囲にわたって身につかなかった

- ・入学当時は自分自身おもしろくなくて、なげやりでした

新6回生. 基礎をしっかりと学ばなかったこと

新7回生. 範囲が広くて焦点を合せ深く考えるまでにいかなかった

- ・専門であることがつかめなかった
- ・就職に対する考えが甘かった

新8回生. 学問的に有機的な関連がなく、実習、見学が主であった

- ・もっと積極的に研究に参加すればよかった
- ハ. 残念だったこと

45回生. 戦争中で授業が満足にうけられなかった

- ・あと僅かで新制に切替ったときです、今考えると残ってでも勉強していたらと思う
- ・学問する場が制限され、学外活動が出来なかった

46回生. 教科書、参考書が殆どなかった

- ・施設見学があまりなかったと思う
- ・在学期間が短かく落着いて勉強出来なかった
- ・学生生活に活気がなく陰うつな空気を思い出す

47回生. アルバイトに追われていた、もっと学ぶべきであった

- ・卒業近く物資が出廻ってきた
- ・井上先生のお話を伺いたかった
- ・学部進学をあきらめたこと

48回生. 学部に入學しなかったこと

- ・思うように実験が出来なかったこと

新1回生. 授業内容が古かったこと

- ・戦後の混乱と学制の変革期で中途半端な勉強に終った
- ・講師の休講が多かったこと
- ・卒論のときに良い先生につけばよかった

新2回生. 実生活に役立つような勉強の仕方をしておけばよかった

- ・物理化学科から転科しなければよかったこと
- ・もっと積極的に貪欲的に知識を吸収すればよかった。寮生活をしなかったこと

新3回生. なついてくれた非行少年が大島に送られて、やがて死んでしまい何もしてやれなかったこと

- ・先生方ともっと交流を深める努力をすべきであった
- ・今の方達のように学校に対する要求など、もっと積極的にすることが、自分達の勉強内容を充実させる為に必要だったのではないかと思います
- ・文化人類学の習得が出来なかったこと

新4回生. 制度上前年の2年は高校の延長のような内容であり、後半の2年だけ専門課目だったので福祉を学んだという満足感はなかった

・実習が少なかったように思われる

新5回生。遊びに徹しられず、青春時代をもっと楽しむべきだったと思うが、家政学部に属していたこと参考書がなかったこと

・貧慾に知識を吸収すべきだったと思っている

・南先生の講義が入学したらなかったこと

・クラス内が群雄割拠だったこと

・学問的でなく学生生活をエンジョイしすぎたこと

新6回生。文学部としての学問が受けたかった

・ゼミや合宿のなかったこと

新7回生。専門の教授が専任に少かった

・法律関係の勉強がほとんど出来なかった

・いろいろな学外活動にもふれておきたかった

・社会福祉をもっと細分化して専門的につっこんで学びたかった

・最少限でなく、最大限に単位をとればよかった

新8回生。主要科目より関連科目に興味があったため腰をすえた学び方が出来なかった

・専門科目が好きになれなかった

・他大学との交流を持たなかったこと

・社会を見ることに熱心なばかりで勉強に身が入らなかった

・運動、レクリエーション的なことをする時間、場所、機会があまりなかった

ニ。いやだったこと

45回生。学徒動員、西生田寮、食糧不足、講座不足、家政科的授業はありがたくなかった

・入学当時、学則や躰の面で威圧的なものを感じた

・三類館の校舎やトイレが汚かったこと

・勉強に専念出来なかったこと

46回生。先生が焼け出されたりして遠くから来られる方が多く休校が多かった

・寮の食事の昼は大体さつま芋、買出しに行くこと

・冬の講義は寒かった

・事務室の先生のこわかったこと

・管理科は、はじめから希望した人と第2志望で廻された人(大分多い)とがあり、あまりまとまらなかった。他の科より肩身のせまい感じで残念だった

・女の先生が多く自己満足型が多かった

47回生。決心会、決論会での発表

48回生。帰省時はいつも汽車に乗れなくて困った

新1回生。教師陣が旧態依然としていたこと

・西生田の一年間は通学時間が長くて嫌だった

・食糧がなく、校舎が寒かったこと、学校内の図書が充分でなかったこと

新2回生。田圃や畑をやらされたこと

・お点面接の場面

・人数が多すぎたせいかクラスのまとまりがなかった

・東京出身の派手なグループにコンプレックスがあった

・派手な寮生活、お主婦様の感覚

・社会福祉的な授業を望んでいたのに家政科的なことを多くやりすぎた

・マイク使用の授業

新3回生。見学に行ったとき皆が履物を揃えずに上行儀悪さや見学態度など

新5回生。学外の研究会など夜になると寮の門限その他で出席出来なかった

・一学期だけ寮生活を体験したが、女の世界のいやらしさに巻きこまれない大変な努力がいった

・教室の掃除が行きとどかなくて汚れていたこと

新6回生。実倫、瞑想会の出席強制

新7回生。施設をのぞいてわかった様にレポートを書いたこと

・思想的な偏見でみる女子大内職員

・先生との師弟のつながりがもてなかった

・教授陣にアカデミックな雰囲気欠けていた

・成瀬仁蔵先生が偉人のように云われたこと

・8回生。女子大の気安さからか、アカデミックな空気とは少々へだたりを感じた

・熱心な人が何でも先走ってやってしまう

・就職難だった

・学問研究を求める人以外と思われる人の入学が許されていた

ホ。その他

・寒い季節にオーバーを着て講義を聞く

・入学時は非常に社会科学面が充実した授業であったが次第に家政科的色彩が濃厚になった

・夜ローソクの光で『日本文化史序説』等読んだのを覚えている

・福祉系の活動として引揚者の手伝い、赤い羽根募金の手伝いなどを一生懸命した

・卒業生の動向調査をしてまとめました(3回生)

・社会福祉科としての講義科目が貧弱で、専門的な資格もなく、といって先生になる為のものも備っていないとどっちつかずでした

・寮生活は兄弟姉妹のない私にとってはすごいプラス

でした

- ・卒業後の就職について何等相談にのって頂けず自分で探したこと
- ・現場実習とか見学のとき、健康でなかったので常に人に云えない努力が必要だった

2. 当時の社会情勢で印象に残ったこと

45回生。現在の頭では到底考えることの出来ない暗い情けないものであった

- ・軍関係の仕事を生田学生寮でしている最中終戦を迎えた印象。昨日までエネルギーをかけて製作した品物を次の日自らの手で火中に投入した嘆きは今でも忘れない次の世代の者にこの様な価値観の変動は経験させてはならないと心に誓った
- ・板橋の陸軍補給廠に動員された
- ・自宅で空襲に会った。空襲のおそろしさ
- ・終戦。敗戦当時の混乱。盛り場は闇市、浮浪児で一杯だった
- ・食糧事情悪く寮でも雑炊にふりかけという状態であった

46回生。終戦、敗戦、進駐軍、A級戦犯裁判、男女同権、民主主義、物不足、やみ市、復員、海外からの引揚者、浮浪者のむれ

- ・学食のみつ豆（ママレード入）がめずらしく、よく休講の時食べた
- ・学生就任問題で生徒から不満が出され、新聞記者などが取材に来た。学生の要求も高い政治性をもつものでなくても要求を表明することを始めて知った
- ・本がなく講義を夢中で記録した。リーダーズダイジェストを買うため寮の友達が長時間列をつくって求めて来た
- ・科の学習内容がすぐ社会に役立つ又要求されている様な気がした
- ・旧憲法より新憲法に変る時期で法制の講義が大変印象的
- ・目白駅まで焼野原。さつま芋のおべんとう
- ・木造体育館での体操、女の先生が美しかった
- ・帝銀事件で目白署が騒がしかった
- ・学生運動が各大学で起りはじめた
- ・終戦時、日々刻々変化する社会情勢が全て印象に残っている

47回生。昭和21年度の入学式は6月でした

- ・食糧も不足、学習だけに集中出来なかった
- ・下山事件、井上先生の追放、寮生活にも食糧難、敗戦のつめあとは各所にあった

- ・休講が多く、本がなかなか手に入らなかった

48回生。モノ不足で、サッカリン、ライターの石が貴重品だった

- ・学生運動は禁止、“赤”に対する弾圧はきびしく、朝鮮戦争が勃発した

新1回生。血のメーデーと呼ばれる宮城前事件に女子大の人々が参加者と間違えられたり学長問題での集会、戦争とその責任追求の問題

- ・レッドパージ、イールズ声明、中小企業の倒産、新興宗教の出現、おどる宗教など
- ・朝鮮戦争と日本の特需での経済の立ちなおり
- ・食糧事情が悪くいつも空腹だったが、その反面戦後の自由を満喫し、勉強を平和に出来ることに感謝していた
- ・婦人に参政権が与えられ「女性の地位の向上」「男女同権」ということが叫ばれ、男性に追いつけ、追いつけといった風潮が強かったこと。映画館は超満員

- ・六三制の教育制度がよく理解出来なかったこと、参考書、単行本の紙質の悪さ、片山内閣がすぐ倒れたこと

・ターミナルに群がる浮浪者のむれから、西生田の山に入ると別天地で世の中の矛盾を身にしみて感じさせられる毎日でした。ラジオでは「鐘の鳴る丘」のドラマの鐘の音がひびき、アリの街のマリアの死、闇商品を買わないでなくなった判事の死など

新2回生。浮浪児、家出児、浮浪者刈込みの問題（無秩序）帝銀事件、GHQ経済安定9原則をめぐって下山、三鷹事件、朝鮮動乱、寿産院事件、など

- ・1951年対日平和条約、日米安全保障条約が吉田首相の手で結ばれ当時学生間にも単独講和か、全面講和かと議論が盛んであった
- ・極度のインフレーション、食糧難（寮のおじや）
- ・西生田分校での田植えなど、日本のその時代の必要を如実に示していたと思う
- ・青少年問題、売春婦問題がいまだに強く頭に残っています
- ・食糧、衣類すべてにわたって不足していて生活が現在ほど豊かでなかった

・皇居前メーデーのそう乱、火焰ビン事件

- ・女性にも男性と同等に就職の門戸が開かれ国会等にも婦人代議士が多く選出された

新4回生。戦後やっと外来の音楽家が多くなり、つくづく平和になったことを感じて大変感激した

新5回生。終戦後まもなくのことでどういう方向にすすんでいくのかわからなかったが外食もゆるやかになり、音楽家も来日し、絵なども来て少しづつうるおいも出てきたように思われます。25年の朝鮮動乱も終り景気も回復したのでしょうかが卒業の時の就職が思うようにならなかった

・世の中が一生懸命成長しようとしている時代で、まだムードも地味でむしろ堅実に過ぎていたように思う

・お茶の水女子大のストライキ

・入学当時は、レッドパージを強調された

・吉田内閣、ハガチー事件、浅沼稻次郎氏刺客にたおれる

・ボーダーライン以下の生活者が多かった、人間の生活以前の問題が沢山あった

新7回生。闇米が高く売れた、ガード下、山谷のバタヤ部落、つつましい生活であった

・今の方々が驚くほど対外、学外に目をむけることを禁じられていた

・不景気で就職難、社会福祉、社会学などまだまだ認識不足

・アメリカのマッカーシー旋風、教育二法成立、第五福竜丸、指揮権の発動、反動化の方向へ向っていった

新8回生。愛親覚羅いせいさんの心中事件

・歌声運動、砂川内灘問題、二重橋事件、造船疑獄、米水爆実験開始（死の灰）

・売春防止法制定への動き

3. 学生時代の宗教観はどのようなものでしたか

・特定の宗教はなかったが1つの信念を持たねばならぬと感じていた 12

・自分の中に何かを絶えず求める気持ちはあっても固定したものは得られなかった 7

・どの宗教にしろ道は違えど頂きは同じという感じを持っている 2

・他力本願的なものより自力的なものに惹かれていた 5

・既存宗教には反撥を感じていた 4

・特別な宗教への関心もなかったが成瀬先生のお話を伺い、少し聖書を読んだ 2

・特にはっきりしたものは持たなかったが、家庭の影響は強かった 1

・キリスト教、信者、教徒、（旧教、新教） 7

・キリスト教的なもの 3

・家庭がキリスト教の為深く考えずこれに従った 4

・成瀬先生のアイディアを一生懸命勉強、又神道、仏教、キリスト教それぞれ知る為に歩いた 4

・キリスト教聖書研究、親らんの書に傾倒、浄土真宗も研究、しかし特定の宗教に入らず 2

・帰一宗教ということについて、なるほどと思った 6

・混乱期で無神論、無宗教、無関心 14

・余り考えたことなし 10

・神の存在を信じようと知る為にいろいろ研究しましたが結局わからなかった 5

・父が仏教にあったため一つの固定した信仰を持たされて育ったためそれを盲目的なものから自分自身のものとして見究めようと努力した 1

・成瀬先生の帰一宗教は信じられなかった、むしろ考え方が甘いとさえ思った。信仰はもっときびしいものです 1

4. 印象に残った講義

（講義名）	（担当の先生）
社会事業概論	生江孝之
実践 倫理	井上秀 ・大橋広
〃	渡辺 ・上代たの
社会学・哲学	綿貫哲男
倫理学・哲学	村田豊文
職業病	
労働衛生	暉 聡 ・勝木
英 語	菅支那 ・松本武子
社会調査	松宮 ・南博
民法・法制・憲法	幸坂
数 学	石原
統計学	松宮 ・森田優三
家庭管理	氏家寿子
西洋料理	小林文子
文 学	佐山
思想史	菅支那
社会学	林恵海 ・小山栄三
社会事業概論	今岡健一郎
日本料理	亘
新聞学	小山栄三
産業心理	淡路円治郎
社会心理学	岸戸 ・南博
応用心理	淡路円治郎

心理学概論・児童心理	児玉省	労働科学研究所	2ヶ月
衣服概論	上田りゆ	46回, 47回, 48回生は実習なし	
統計学	森数樹	新制の学生は希望者のみ実施	
環境衛生学	荻原	東京療養所	2週間
化学	丹下	二葉園	3, 4年夏休み
家族論・法制	我妻栄	片倉工業株式会社大宮工場	1週間位
経済史	高橋誠一郎	品川の福祉事務所	2日間
社会問題	小山栄三	児童相談所	1週間
児童福祉	松島正儀	古河町立養護施設	10日間
教育心理学	周郷博	聖路加病院	2週間
精神衛生	村松博雄・井村恒雄	品川公共職業安定所	10日間
Sociology	篠崎秀穂	池袋公共職業安定所	4日間
異常心理	井村恒雄	横浜家庭学園(女子教護院)	2~4年夏休み
ケースワーク	大島たね・竹内菊代	東京育成園	夏休み中
経済学	中村佐一	国立精神衛生研究所	1週間
ケースワーク	平賀孟	飯田橋公共職業安定所	1ヵ月
社会立法	木田徹郎	明石町保育園	10日間
現代哲学思想	菅支那	目白警察署少年係	3ヵ月間
国語	上村悦子・青木生子	国立第一病院精神科	10日間
ソーシャルケースワーク	菅支那	品川児童相談所	1週間
グループワーク	竹内菊代	YWCA	2週間
社会事業	松島正儀	区立中学	4週間
社会思想史	高橋誠一郎	お茶大附属幼稚園	2週間
生物学講座	時実	お寺を借りての子ども会	4年前期6ヵ月
演習(少年犯罪について英文)菅支那		中央児童相談所	3週間
社会事業史	一番ヶ瀬康子	板橋福祉事務所	1週間
社会調査・社会心理	高月東一	日赤中央病院	2週間
政治学	原田綱	杉並福祉事務所	前期6ヵ月
社会保障	末高信	新宿福祉事務所	週半日1回
職業指導	遊佐	台東児童相談所	1ヵ月
グループワーク	永井	豊島, 北品川, 足立各福祉事務所	
西洋美術史	吉田	国立第二病院	3週間
日本美術史	野間清六	区立旭ヶ丘中学	3週間
国語	武島羽衣	神田橋公共職業安定所	2週間
ケースワーク	松本武子	目黒若葉寮	3週間
社会哲学	菅支那	バット博士記念ホーム	3週間
原書講読	篠崎・松本	国立神奈川療養所	3週間
都市・農村社会学有	有賀喜三衛門	愛光少年院	10日間
地誌学	佐藤基次郎	東京家庭裁判所	10日間
5. 実習について		東京保護観察所	
イ. 実習先	ロ. 期間	世田ヶ谷福祉事務所	前期
45回生		愛隣会	2週間
勤労奉仕で兵器補給廠	6ヶ月位	中央保健所	
		賛育会病院	

5. ハ. 印象的だったこと

- ・勤労奉仕はグループで結構楽しく過した
- ・労研で科学的実験のきびしさを知る
- ・実社会に適用する学問
- ・ケースワークで家庭訪問し、届けていることと実際の生活が違い庶民の生活の実態を知った
- ・園長先生と園児の関係
- ・労務課長から婦人労働者と呼んでほしいと注意を受けたこと（女工という言葉はタブーであった）
- ・児童福祉司と要保護家庭を訪問したこと
- ・施設は小さかったが立派な職員が多かった衛生に注したキッチンとした所でした
- ・佃の渡に乗って家庭訪問したこと
- ・生保学庭の優生保護法適用をースを受持ったこと。事務所で一人前に扱ってくれたこと。すぐケースを持たされたこと
- ・養護施設での保母さん方の愛情の深さ
- ・自分の適性職業のテストをして貰ったこと
- ・福祉司の綿密な指導をうけ、働く婦人の姿として印象に残っている
- ・署長さんがとてもよい方だったこと
- ・自分たちがこしらえた子ども会が後輩たちの実習の場となりえたこと
- ・学問のきびしさを知りました
- ・どこ施設でも奉仕する人の献身的な姿勢
- ・自分と異った社会及び考え方があることを知ったこと
- ・YWCAのグループワークはあくまでもキリスト教という基盤の上に立ったものであったが、対象者がバラバラであつたらどのようにグループワークしていくのか考えさせられ、テクニックだけでない多くの要素の積み重ねであることの大変さを感じた
- ・異常行動をおこす人間の裏にあるさまざまな問題をまのあたりにみたこと
- ・実際に教師の体験をしてその生活にふれたこと
- ・その頃精研の先生方が「Authoritarian personality」というテーマで研究されていたが、そのお手伝いでcase-workをさせていただいた
- ・ケースワーカーとして実地に訪問して相談を受けたこと、反応のあったことは意外だった
- ・幼稚教育に対して、心理的な面を重視して教育してい

いるのが印象的だった

- ・精神科の外来で予診を受け持ってカルテに聞きながら書き込んだこと
- ・YWCAのキャンプでグループワークの実習をしたこと
- ・どちらにも親切的な卒業生が就職して活躍していたこと
- ・多くの人が費用のことについて相談に来たように思う
- ・なごやかな生活、すばらしい人達
- ・福祉事務所の仕事はとても大変、私にはむかひないと思った
- ・はじめて精神病患者をみて毎日が不安の日々でした
- ・医療社会事業が病院の中で小さな存在でしかなく、閑散としていました
- ・捨て子の多かったこと、家庭環境の悪い子どもが多かったこと
- ・色々な先生に接して勉強出来たこと
- ・福祉事務所は以外と事務的でカウンセリング、ケースワークなどと勢い込んでいたために肩すかしを食ったようで、その思いと生保家庭の生活ぶりが強烈でした
- ・実践に裏付けられた指導の強大さを感じた
- ・松島先生のお人柄、尊敬する
- ・病気になることが人間をどんなに弱気にさせるか知った
- ・才色兼備の秋月さんという婦人を思い出す
- ・建物、食事の粗末なこと、子ども達の問題の複雑なこと
- ・住み込みでしたので子どもとの接触多く、各ケースを追ったのがよい勉強
- ・先輩の仕事を寝食を共にしてうかがい得た
- ・保護観察が保護司によって支えられ観察官は事務処理におわれていた
- ・指導の先生方が親切で楽しかった
- ・混血児のいろいろな問題にじかにふれた
- ・調査官やケースワーカーが事務職のようであり職業に生きがいを見出しているようでなかった
- ・アカデミックな研究所で、心理療法や面接などご指導いただいた点
- ・ケースワークの考え方と裁判、あるいは裁判所という考え方がいろいろな面でぶつかり合っていた

5. ニ. 困ったこと

- ・基礎教育の不足
- ・実習はいつも困ったことだらけであった
- ・自分自身の身のおき場がない疎外感に苦しめられた
- ・実習生の座る場所がなかったこと、したがって何処で昼食をとったらよいか迷った。何の説明もされずにいきなりケースに対応させられた時の面接場面
- ・子どもの親の夫婦間調整に当面して困惑した
- ・こんなに心の病気で悩んでいる人が多いものかとの驚き
- ・経験不足の学生の身ではとてもインタビューや精神的支えや、救いになってあげることが出来ないこと
- ・子ども会の適当な場所がなかったこと、吉沢先生と苦勞をした思い出があります
- ・相手は大人の自殺未遂者でしたので、大人の社会を経験していない学生では判断に迷うというか理解出来ない面もありました
- ・医療問題について学校で学んでいなかったので勉強不足で困った
- ・面接者が大へん真 に治療に期待してきたこと、自分の頼りなさがなさげなかった
- ・勉強の機会がなく、部屋の留守番をしていたように思う
- ・自分の経験していない事を経験済の家出娘の面接をしたとき
- ・恵まれた環境に居ながら利用しきれなかったこと
- ・就職難だったので、実習と就職が結びつかなかった
- ・実習先で児童の知能テストの検査が必要視された、(心理学の講義はあったが、検査法などテクニックは教えられてなかった)
- ・アフターケアのための訪問調査は相手が目的を理解するのに余りにも特殊であった
- ・帰寮時間を気にしなければならなかった

6. 見学について

イ. 見学先

松沢病院	島田療養園
梅ヶ丘保養院	国会
浴風園	裁判所
養育院	NHK
教養施設	立川婦人更生施設
光明学園	国立障害センター
大塚聾啞学校	肢体不自由児施設
荻山実務学校	深川助産施設

愛隣団

明石町水上小学校

府中刑務所

小菅刑務所

育成園

愛光女子学園

八幡学園

国府台病院

聖心愛子会

エリザベスサンダースホーム

墨田福祉事務所

東京都中央児童相談所

石神井学園

ロ. 期間

46回生は見学なし、他の回生は半期のみ、通年と回生によって異なる

愛隣園

武蔵野学院

二葉保育園

母子寮

隣保館

済生会病院

警視庁

国立精神衛生研究所

日赤子どもの家

江東福祉事務所

聖路加国際病院

6. ハ. 印象的だったこと

- ・設備が悪いのによく働いておられた、職員の献身的な姿に頭が下る
- ・精神病患者の色々な状態をみたこと
- ・都養育院ではララ物資の毛皮のオーバーを着て日向ぼっこしている老人を見た
- ・乳児院に混血の赤ちゃんがいた
- ・肢体不自由児施設では懸命に生きる子ども達の姿に感銘
- ・障害をもった子について考えさせられた
- ・私立、公立施設の待遇の違い又、入居者の考え方の違いを感じました
- ・福祉科の先輩が一生をかけて働いていらっしやつたこと
- ・施設従事者の大変な努力を痛感した
- ・リーダーの大照先生のはげましに今日感謝しています
- ・子どものあどけない顔、それが忘れられず夏休みなど共済会支援の施設や近所の施設の里親をやっていました
- ・広い敷地、シスターのお話、夕方の緑の芝生の色
- ・一般的に余り知られていない面を見たという印象
- ・陽の当らぬところに生きる人々、働く人々を見、福祉とは何ぞやという事を改めて考えさせられた
- ・当時(S29年)は食事や設備、建物などいろいろな面で今にくらべて貧弱だったと思います
- ・世間知らずなので、一つ一つが目新しく驚きのみだ

- った
- ・日赤子どもの家で子ども達が一番のぞんでいるのは一緒に遊ぶ若人達だということ
 - ・関心のある学生は熱心で他の学生は早く帰りにく質問などして嫌がられたことがあった
 - ・収容児童の瞳が暗かった。シスター達に明るさが無い
 - ・不自由な身体にも拘らず音楽にいそしんだり、明るい生活が印象的だった
 - ・施設の目的や実態を把握出来た

6. ニ. 困ったこと

- ・施設は交通の不備なところに多い
- ・施設に行って入園者との接し方
- ・なつかれすぎ施設の方に迷惑をかけた
- ・表面的なことだけ見てそれで終りにしてしまう、もっとやり方があったのではと思いますが
- ・浴風園に行ったとき、おじいさん、おばあさんに何と話しかけてよいかわからなかった
- ・短時間でレポートを書くので困った
- ・目的の違う人と一緒に見学で通り一ぺんの見学しか出来なかった

7. 卒業論文について

7. イ. 論文テーマ

第45回生論文(昭和22年3月)

生活の合理化に関する研究(共同論文)	林 千鶴子
	吉田 矩子
女子労働者賃金の趨勢(共同論文)	勝田てる子
	高田 恭子
明治時代の婦人労働者について	大久保香代子
最近十ヶ年の新産児体重の推移	原田 節子
アミエルの日記	小島 啓子
婚姻制・夫婦関係より見たる各時代に	
おける婦人の地位	平戸 純子
日本家族制度史研究	光藤 成子
社会的生活条件と児童の智能発達について(共同研究)	高草 充江
	越智 桂子
筆跡と性格についての研究(共同研究)	石井 綾子
	川島 道子 清水 和子

体型について(共同研究)

子供と環境(共同研究)

ニイチェの「教育者としてのショウベン

ハウエル」について

食餌と特異体質

教育の本質と仏教の思想

日本の資本主義について

新生児の心理について

農村文化論(共同研究)

農村の乳幼児の健康状態

日本農業経済の歴史的変遷について

(共同論文)

職業問題(特に婦人の職業)(共同論文)

新しき農村と青年

精神生活の発達過程についての一研究

家族制度及び婦人の地位について

女性の地位について

少年教護論

最近における東京都一工場の勤労者生活

の一面について(共同論文)

坂井 敬子 田中 節子

瀬石と愛

環境と教育

徳川時代に於ける農村を主とした人口

観察

女子体育に関する思想的考察(共同論文)

日向 典子 藤田 良枝

村岡 鶴代 米原 雅子

工場経営論就中流れ作業について

家族制度崩壊後における日本の家の在

り方について

社会事業の総合形態より見たる我国方面

委員制度及民生委員制度について

小国民調査よりみたる環境の児童に及ぼ

す影響についての考察

農村に於ける生活状態の実状とその改善

について

回心の心理 (共同論文)

女性の倫理

藤田 綾子

弘津 啓子

高橋 ミツ

永井 清子

秋田 佐都恵

三沢 光子

渡辺 了子

能美 常子

鈴木 昭子

井上 君子

依田 花子

河村 俊子

芦田 直子

勝井小依子

布施 知子

小川 喜代

小室 元代

原 嘉美

四宮 久代

篠崎 和子

小笠原美智子

今井 輝子

門馬 昭子

吉川 節子

渡辺 弘子

新井 秀子

曾田 桂子

長谷川 玲

藤田 良枝

米原 雅子

土生 奎子

大平えみ子

瀬谷ミヨ子

平松津多子

小山田ヤウ

北岡 澄子

田中美香子

石黒貴恵子

骨格筋の寒冷トーンによる筋疲労と体操の必要性（共同論文）	加来 奈那	低能児教育の研究	中村あき子
若きゲーテの宗教思想	西野入幸子	近代化の過程について	林 実生子
理性と感情	三木 道子	戦後世界経済の課題と家計の立場	冬野み弥子
法制史よりみたる今後の女性の在り方	吉川 静枝	配給機構の編成並にに東京都に於ける生	
反抗少女の行動分析による環境の倫理的批判	大室 淑子	鮮食料品需給状況の実態調査について	松三 靖子
明治以前に於ける仏教社会事業研究	中村 雅子	不良少年について	松本 良子
児童保護の重要性について	摺沢 豊子	思想的原因より見たるフランス革命の教訓	前田 雅子
幼児の心理的取扱いについて	島田 孝子	将来の経済について	丸山るみ子
宮沢賢治の一生	仲田 さち	家族制度の廃止と家族主義的人間	森 美智子
家族の本質と貞操	木下 和子	自立制教育	山口 仁子
日本経済再建と失業問題—完全雇傭の本質—	工藤 寿子	製糸業の寄宿舎生活民主化について（共同論文）	山田 純子
	進藤智恵子	社会主義経済理論と経済均衡	津田 洋子
第46回生論文（昭和23年3月）		女性の地位とその動向	和気 一水
倉田百三の愛と信仰に就いて（共同論文）		沖縄社会事業の過去現在及将来についての研究	渡辺 芳子
	相沢千恵子	家族制度と婦人の地位	大城ミヨ子
	倉沢 誠子	女子賃銀問題に就いての一考察（共同論文）	佐藤 愛子
児童の性格と環境について（共同論文）	石橋 佳香	電話交換手の勤労状態（共同論文）	渡部ヒロ子
	植木 雅子		田辺 真子
現下国際運動の萌芽と其内容について			青木 京子
—ユネスコ運動を中心として—	和泉 昭子		中原スワ子
経済と倫理	岩城美奈子	或農村の民主化	伊藤 康子
ゲーテ作品「ファスト」の哲学的考察	内野 君子	炊事と火	今西 愛子
主婦のための女子教育革新論	宇留島良子	消費組合の構造	遠藤 節子
人体保健上必要な衛生学的考察	大村 冴子	イタリー文芸復興に於ける人間の発見とヒューマニズム	
日本カトリック社会事業小史	奥 都	姦通罪への考察、併せて法と道徳との限界について	大沢 恭子
労働者と労働運動	緒方 郁子	綿業発達より見たる婦人紡績運動について	大良 光子
日本法制史上にあらわれたる女性の地位とその社会的背景	笠原 啓子	近代社会事業の成立過程について（共同論文）	小野津嘉子
宮沢賢治への一短見	加藤 昭子		金丸 芳枝
我国産業の発達と労働状態	川鍋美智子	婦人解放運動よりみたる婦人と職業問題の思想的考察	西野入和子
労働基準法の考察	絹原陸奥子	社会事業の成立過程	倉田 正子
再建日本経済に於ける完全雇傭	倉岡 小夜	社会問題の短見	斉藤 政子
日本資本主義経済の質的考察	栗田富美江	衣服の変遷	佐藤 玲子
映画の社会性について—試論—	相良 和子	戦後世界経済の展望	清水 良子
戦後経済の確立	斉藤 栄子	幼き者の性に就て	正田 和子
個人と社会	須藤 俊子	住家の改善	関 政子
子供と宗教	鈴木 菊子	児童の衛生教育	高木 君子
日本美術史と時代精神	高橋 淑子	「闇の女」の研究（共同論文）	高橋 道子
日本に於ける基督教と社会事業	田口 紫草		高原美代子
東京都内に於ける浮浪者及浮浪児の社会政策について	長島 キイ		星島 民子
			藤巻 安子

児童の生活に含まれる教育価値と家庭教育

婦人の解放運動について
フレーベルの生涯

思想の変遷と婦人運動の発生及意義
性格を中心とした不良少年の研究

(共同研究) 古田 典子
村岸 慶子

民主教育と成瀬先生教育
男女同一賃銀についての考察

(共同論文)

我が国農村の封建性と婦人労働問題

児童保護に依る保護観察日誌

社会と音楽生活

産業革命と近代社会の構造

英国産業革命を中心としての私労働者

短見

民主主義の原理及発達過程について

近世史に於る人間の概念

婦人の歩みについて

現下の経済危機を如何に打開すべきか

戦争放棄と日本人の文化史的使命

有島武郎小論特に或る女について

日本光学に於る職務分析

インフレについて

貧民政策の研究

第47回生論文(昭和24年3月)

我が国直接民主政治に於る地方自治法とリョ荒木 保子
コール制について (共同論文) 横山 和子

婚姻ということ 植松 和子
未亡人問題実態調査 (共同論文) 大場 愛子

特殊部落問題と其の解決策
(共同論文) 田中登美子

家族制度と妾の制度への考察
留置場内の落書調査による犯罪者心理の
一考察 (共同論文)

婦人の地位

性格と環境

恋愛について(秩序形成の基盤をめぐ
て (共同論文)

戦後女性犯罪の一考察

一女囚の実態調査一

内藤 清子

中村 雅子

西河 孝子

原 礼子

竹岡 典子

池上 博子

山口 京子

平山富貴子

古川 早苗

松崎 耀子

松尾あや子

松本富貴子

前川 明子

丸山 和子

三浦智栄子

森井 節子

山田 邦子

山地 甲

横田美代子

和田 恭子

渡辺 みね

渡辺 礼子

宇山 玲子

城戸 良子

荒木 保子

横山 和子

植松 和子

大場 愛子

志村佳津子

斉藤 典

畑 珠江

湯本 愛子

太田 レイ

野口 晃子

本田久美子

高橋 和子

石橋 和子

田中フミ子

鈴木智恵子

林 和子

トルストイの社会思想

社会事業に対する一考察

アメリカ独立の思想的背景

放送

第47回生論文(新生1回生)

戦後日本の婦人雑誌に表れたる一傾向
(共同論文)

真実のいぶき 一八玉子機業の実態一
(共同論文) 一九美佐緒
三村美美子

社会保障制度

農村婦人開放への途

(共同論文)

村の生活 一千葉県君津郡富岡村本下
郡一 (共同論文) 河野 恭子

イギリスの進む道一社会主義の構造を
めぐって一

民族と文化

精神薄弱児の立場よりのて 一児童福
祉の立場よりの一 考察

日本の家風

我が国に於る失業の特異性

不良化過程の心理的考察

中小炭鉱労働の実態

児童の生活行動圏の調査

(共同論文) 西端 洋子

社会保障の究明と社会事業への関聯

文化類型学に関する一考察

婚姻の法的意義 一婚姻届出を中心
として一 (共同論文) 城下 美子
横田 雄子

被生活保護者の労働について

社会保障制度

社会福祉への道 一社会事業に関連
して一

労働政策と労働意欲の実態

(共同論文)

演劇の娯楽性 一婦人層に於ける娯
楽の調査研究一 (共同論文) 岩田慶子

農業問題

(共同論文) 川本 敬子

日本映画分析 一社会心理学的研究一
雨宮 真了

神谷 孝子

大塚 房子

白川 和子

平岡 黎子

高野 悦子

鈴木 初美

福島 宏子

高城千恵子

長居 京子

米沢 貞子

小山 正子

小森 寛子

板倉 和枝

平田ツヤ子

深沢 里子

今宮喜美子

玉川 俊子

折橋 徳子

村上美津子

三浦 信子

木村 公子

手塚 豊子

藤沢美代子

本間 洋子

松橋 節子

斉藤 鈴子

戸田 順子

吉見 礼子

鈴木美江子

猪股 佳子

平松美代子

林 澄子

中倉美智子

阿南 綾子

永倉さく子

富塚 佑子

曾根田喜佐代

金野 好江

大平 玲子

婦人犯罪者と乳児の問題	伊藤 治子	大橋 哲子	社会事業技術に於ける新傾向	児玉 輝子
	(共同論文)	湊 和子	一ケースワークとグループワークの併用	
ケースワーク一その系譜と問題一	野村 いね	三橋伊津子	ケース・ワークに於ける社会	神田 美子
日本音楽の社会学的考察		菊谷 礼子	診断の問題一窃盗児の事例をとおして一	
結核対策と健康保険		櫛木 昭子	一家出少女の問題	小林 純
		河野 規子	一私の実習記録から一	
第48回生論文(専門部卒)			家庭環境より見たる児童不良化防止の一	芦沢美恵子
我国売娼婦制度より見たる			考察(共同論文)	各務 和子
花柳界の史的考察及現状		飯田 和子		山田 エイ
		玉田 友子	少年院の矯正教育	吉沢 英子
精神衛星上より見たる不良		有賀 薫	戦争と少年犯罪の動向	矢野 皓子
及び犯罪少年の家庭環境について		鹿島 悦子		桑原三恵子
現代に於ける年少労働の考察		宮田 輝子	不安の探究	岡崎 道子
我国に於ける上古より明治維新に至る		小川 博子	分裂病者の性格の特徴とその形成に及ぼ	土橋 道子
政治社会組織の変遷及社会問題		布施 浩子	す家庭環境の影響	山崎 道子
社会事業に於ける更生と人間		浅岡 節子	農村の生活とその因習についての考察	加藤美枝子
性の問題		山沢 祝子	戦後社会と少年犯罪	平山 謠子
生長の家、宗教分析		川辺 信子	女大学批判	山口 保子
		小山 智子	一附録精神医学界について一	
青少年の興味調査		服部みち子	本学学生自治生活々動について	伊藤 よね
易の起源について社会心理的考察		広田 幸子	婦人の労働問題についての研究	山田 澄子
農村婦人の労働の分析		氏江 洋子	(共同論文)	道上 和子
農業協同組合における農村指導者の問題		清水 才子	失業対策事業に於ける女子	小林 静枝
未亡人問題について		佐藤千代子	日雇労働者の一考察	三沢 理子
		笠井 容子	一生活状態を中心として一	
婦人の職業問題について		内田 芳枝	八王子機業の実態(共同論文)	川口 和子
民法改正に於ける家族制度		吉田恵美子		池上 和子
		清水 幸子	地域環境と児童(共同論文)	高橋 玲子
一小都市に於ける社会衛生状況より見た		反町美和子		山崎美年子
る社会衛生問題		長崎 寿恵		片島 春実
近世封建社会に於ける資本の発生				梶田 茂子
養老事業の諸問題	野田 菊江		農村に於ける長期欠席児童の実態	桜井 純
	杉浦 リツ		婦人の労働能力について	斎藤 京子
			失業保険についての考察	小川 春枝
新制第2回生論文(昭和26年度3月)			一日雇労働者に対する失業保険について一	
与論調査の発達に關する考察	岩路 昌恵		我が国に於ける職業状態の変遷	秋葉 泰子
結核患者に対する医療社会事業	角頼 富美		(共同論文)	手塚 清子
養老事業の一考察(共同論文)	酒井 凉子		戦後に於ける離婚状態について	赤羽 礼子
	関口 順子		(共同論文)	伊藤 章子
日本農村の社会結合について	山田せつ子			渡辺あや子
日本農村の社会的考察	生原さち江		家族的緊張(共同論文)	高崎さと子
一小作制度の変遷を通してみた一	田中 重美			宮川しづ子
	尾久 京子		資本主義社会に残存せる封建性と家族制	福岡 敏子

度について

一特に一小都市に於ける商家の嫁についての一考察一
神経症の社会的成員に関する研究
(共同論文)

児童の不当適応の研究

一特別学級の調査に基く一

児童憲章について(共同論文)

母子福祉に於ける問題

保育所運営論(共同論文)

東京都下に於ける女子日雇労働者の実態
(共同論文)

婦人労働者の保護

新潟県女子労働事情への一考察

(共同論文)

婦人の地位

一特に労働問題について一

中国婦人の動き

炭鉱労働者の実態

新制第3回生論文(昭和27年度)

未組織織物業に於ける女子賃金の一考察
(共同論文)

我が国の現在の社会情勢に就いて
世論調査について(共同論文)

食生活改善に関する世論調査

(共同論文) 須原さち子

水上生活者の生活現況について

(共同論文)

青少年犯の実態と教育及心理

漱石の不安

神経症発生と治療に於ける凝集点につい

加瀬 道子

加藤三代子

高橋 康子

宮木美知子

森野 昭子

横田 吉子

渡辺 明子

渡辺 洋子

相沢 玲子

浜崎多美子

伊藤美智子

小海 澄子

小川 昌子

小幡 倫子

下河辺和子

須貝まさ子

小川 綾子

酒井 紀子

鈴木希伊子

鈴木美登里

青木二三子

川田 昭子

佐藤 徳重

瀬戸 静子

中村 芳子

原口 節子

水田 良子

林 敦子

前田いみ子

境野 薫

清水 雅子

加藤 信子

米盛 和子

藤山 充子

矢内 郁子

大橋 静

恒田勢津子

星合 敏子

笠間 秀子

飯村 政子

て(共同論文)

自殺の心理機制と未遂者の再適応

(共同論文)

精神異常者の権威と人格に対する考察

(共同論文) 保前満喜子

地域社会改善の一方法としての児童福祉

(共同論文)

児童の不良化に及ぼす家庭環境と社会環
境

児童の生活保障

青少年不良化要因に関する研究

(共同論文)

問題児とその背景(共同論文)

一医療少年院に実習して(共同論文)

多種多子の家庭

或問題児と教育心理的考察

家庭環境による少年不良化問題

嫁の環境との義理関係

ラジオと幼児(共同論文)

不良仲間

特殊地区に於ける家族軋轢の研究

(共同論文)

青少年と空白期

生活のうるおい(共同論文)

房総に於ける社会教育の一考察

養子制度の推移の概観

産業革命と英国婦人

日本の商業新聞と読者に関する一研究

(共同論文)

放送心理の一考察(共同論文)

デパートメントストアの研究

(共同論文)

新制4回生論文(昭和28年度)

ホスピタリズムの研究(共同論文)

中田 奎子

松田 陽子

鮫島よし子

斎藤 正子

小川 絢子

石井 靖子

小針 羊子

松沢 幸子

小松 峰子

柏野安伊子

野村美代子

山本千夜子

今田 貞子

青木 郁子

黒岩 昌子

佐久間京子

中川 和

刀川 久子

工藤 嘉子

阿部 孝子

新井 節子

伊藤 艶子

中村千鶴子

石坂 敦子

金谷 昌子

鈴木百合子

栗原 鶴代

根岸三喜子

守谷登美子

正木 康子

中村 郁子

川村 節子

近江志げ子

小松 礼子

須田 麗子

穴沢 葉子

森本二三子

今井 孝子

滝本 慶子

高木 清江

井福 京子

庶民金融機関としての公益質屋の必要性について	小沢 スミ子	社会問題としての賃金労働者及びその問題について（共同論文）	穂 生田幸子
年少労働者と余暇生活（共同論文）	兼松 昌子	炭鉱主婦の動きの一考察（共同論文）	久世 洋子
	内山 邑子		大槻弥栄子
	溝渕千香子		塚本 富乃
	鈴木 洋子	日本に於ける年少労働者の問題（共同論文）	愛甲 久子
	田坂 恭子		綱本 玲子
諷刺文学と時代の関係	原川 純子		山根 節子
長期欠席児童問題（共同論文）	北沢 洋子	母子福祉活動に関する拠点（共同論文）	新谷 弘子
	美座 米子		若松 信子
	辻村 英子	主婦の平和に対する考え方（川崎古市場に於ける）（共同論文）	滝口智恵子
身体障害者職業補導の問題点（特に女子身体障害者について）	小林 洋子	夫婦間の緊張	田中 養子
乳幼児双生児の性格研究（共同論文）	塚越ミサヲ		芝本 朗子
	江部 文子		中村 久枝
	鈴木 善子	母子家族における諸問題の研究（共同論文）	土井喜久子
少年性犯罪の分析的研究	宮田 キヨ		後藤 陽子
生活保護法に於ける最低生活について（共同論文）	中田 和子	旧きSWへの一石（上流社会に対するバーソナリティ形成の問題）（共同論文）	小松 輝子
青少年不良化防止対策の実態（共同論文）	桑原 幹子		岩崎 澄子
ケースワークと芸術	加藤美智子		中村 典子
九州炭鉱の主婦のくらし（共同論文）	松沢 道子	自殺の社会学的考察（共同論文）	伊吹山ますみ
	大柴 洋子		小久保靖子
	今泉 悦子	新聞の家庭欄について（共同論文）	宮崎 和子
	篠塚 瑞子		落合不二子
日本の放送プログラム内容の変遷—放送プログラム内容の分析—	清水 安子		竹内 敦子
日本人の権威主義的性格の行方	柳本りう子	児童と映画（日本の児童向映画を中心として）	青野 栄子
嫁姑の問題 「嫁と姑」+X（共同論文）	新井 文子	幼児期に於ける親子関係（共同論文）	遠藤 博子
	天野 知子		亀井せい子
精神分析の流行（共同論文）	小林 和子	地域婦人団体のある一つの在り方	吉川 治子
	滝沢 宮子	非行児童の家族環境分析（三地域より見た）（共同論文）	桧山ひろ子
非行少年に於ける親子関係（共同論文）	渡辺 敏江		四元 倫子
	大森 哲子	家出少年の対策（共同論文）	川原 浩子
	川口 京子		佐々木素子
青少年と音楽放送（共同論文）	宮本 靖子		関戸 宝子
	小山不知子		須貝さち子
	杉山 博子	家出児童の持つ諸問題及び12才未満の家出児童について	
新聞に於ける広告はどうみられているか（反復効果に関する心理テスト）	岡田 敏子	親の態度と児童の性格形成との関係（親の過保護を中心として）（共同論文）	阿部 匡子
児童憲章制定後の児童問題	金子和歌子	少年の非行化傾向と交友関係（共同論文）	井上 淳子
			安藤喜久子
新制5回生論文（昭和29年度）			小林 君代
社会保障の真空にある階層	森野 光美		宮崎 好子
低所得階層（共同論文）	松井 節子	親の権威について（共同論文）	福田 幸子
	大森 弥生		加藤 稲子
被保護階層の動向とボーダーライン層	林 衣代		木津 慶子
我が国労働組合の経営参加について	倉田 英子	非行少年の家庭環境（特に親の態度を中	田島 道子

心として) (共同論文)	田中美奈子	定時制高校の動態	宮坂佳与子
	重森 康子	レクリエーション (共同論文)	本山 孝子
	川口 弘子	(人間関係に及ぼす影響について)	仲野 文
盛り場と少年の非行 (共同論文)	轟 宏子	ホワイト・カラー層の分析	角 稔子
	内田 節子	日本に於けるカトリック社会事業とその	松島 和子
愛の思想	清水 道子	発展	
明治社会と成瀬仁蔵の女子教育観に関する一考察	梅原 道子	里親制度実施上の問題点	金井 明子
18世紀の英国の危機とメソジストの社会改良	別所 幸子	養老施設に於ける老人の欲求不満	橋詰 文子
		デマと社会 (共同論文)	入江 悦子
			早風五律子
新制6回生論文(昭和30年度)		神経症の社会的要因に関する一考察	秋山 欣江
精神薄弱児の社会的予後	西内 育子	(共同論文)	工藤 静枝
地域婦人団体の現状分析並びにそのあり方の究明	堤 禎子	我が国養護施設の問題点	松島真美子
明治、大正、昭和に於ける社会事業の発展	松寿 桂子	扶養を中心とする親族の家族関係	石井 敬子
製糸女子労働者の意識について	奥野 智子	(共同論文)	島田 広子
一給源の問題に関連して一 (共同論文)	藤井千嘉子	零細企業と社会保障	小島 蓉子
特殊教育の社会的意義と実際	尾高 淑子	(共同論文)	河西 孝江
一問題点を中心として一	奥井 郷子	生活保護について	大城みね子
ヒロボン中毒の社会学的一考察	長門 黎子	新制7回生論文(昭和31年度)	
(共同論文)	島田 教子	インドの社会事業に関する一考察	池館 順子
	高橋 邦子	明治期のセツルメント運動とその背景	花巻ヤス子
河合栄治郎氏の社会思想	太田 成子	(共同論文)	林 絹代
児童をもった主婦のラジオ意識	吉岡 康栄		猪瀬 和枝
働く婦人の問題点	葛西 敦子		前沢久美子
一女性教員を中心として一	西田 悦子		村越しう子
(共同論文)	西村 衣代		西川 敦子
山村社会に於ける家族と親族の問題	伊藤須磨子		大井 洋子
一財産相続と結婚を中心として一		児童読物の概観と事例調査	島津百合子
地域社会と混血児	伊藤 啓子	(共同論文)	円山 洋子
農村社会の一考察	平光 孝子	失対自由労働者の組合活動	松山 愛子
一兵庫県多紀郡城東村の場合一	小川美佐子	(共同論文)	狩野 節子
(共同論文)	谷垣 秀野		荒木 明子
農村に於ける過剰人口の問題	福里美恵子		加藤 澄子
(共同論文)	永野 節子		平井 町子
マス・コミュニケーションの一形態としてのラジオと児童 (共同論文)	安藤千鶴子		大城 栄子
既婚職業婦人の労働問題	三沢 春子		長友 米子
(共同論文)	柴田 雅子	保護観察に関する一考察	和田ヤウ子
韓国にもたらすべき児童福祉事業の研究	大谷 芳子	(共同論文)	野地タカ子
一特に児童福祉事業機構、施設の樹立及び保母の任務の必要性について一	崔 恵淑	身分よりみた家族制度の動き	三村 喜久
		一古代から近世まで一 (共同論文)	田島 郁子
			森田 珠代
			後藤 千寿
			福岡 康子

北川辺村に於ける貧困世帯の実態
(共同論文)

貝原益軒と慈恵思想
ヘーゲルの社会倫理
一人子のパーソナリティについて
一母親の懸態度を中心として一(共同論文)
テレビの児童に及ぼす影響について
(共同論文)
我国養護施設の動向
一施設長を主軸とした調査を中心として一
(共同論文)

北川辺村社会福祉協議会に関する一考察
(共同論文)
少年院の交友関係(共同論文)

児童福祉に関する地域組織化の困難性
(共同論文)
分裂病患者と家族との対人関係
現代視聴覚教育の動向とその可否について

新制第8回生論文(昭和32年度)
農繁期と季節保育所(共同論文)

大正期のセツルメント運動
(共同論文)

世代のずれからみた親子関係についての
一考察(共同論文)

中小工業労働者問題
一ミシン工業労働者実態調査一
(共同論文)

花形もと子
藤田満里子
赤井 洋子
宮沢 尚子
山下 知子
出口 靖子
大野世喜子

鈴木 園子
細川 千里
河野喜美子
田島 京
太田 珠江
佐藤 章子
工藤とも子
富塚 陽子
宇都宮万代
山岸 ひろ

水野 歳子
平田キヌ子
今西美奈子
豊田美智子
黒川 徳子
斎藤 裕子
佐藤 道子
武半やす子
高田 令子
西江 麗子

藤倉 米子
菊地 禾子
小渕 初代
柴 寿子
山本富盛江
須永 節子
堀 康子
相沢 敬子
福田 文子
伊藤 安代
川里 紀子
近藤喜美子
四方 久子
中野 悦子

家庭老人の福祉
(共同論文)

我国農村における家族構成
(共同論文)

医療社会事業の発達および現状分析
(共同論文)

精神薄弱児の福祉に関する一考察
一通園センターを主軸として一
身体障害児童の実態
英国救貧法に関する一考察
一改正救貧法一
地域における児童福祉活動の一考察
一子ども会一
(共同論文)

非行少年に関する研究
農村婦人と文化活動
一婦人会活動を中心として一
(共同論文)

日本に於ける学校生活協同組合の歴史と
現状(共同論文)

戸沢貴美子
牧野田恵美子
太田 純子
宮崎 成子
深沢 典子
下重 和子
岩橋三木子
木下 貞子
直井 陽子
岡野 全子
大村 陽子
武田 輝子
山田 絢子
郡山 益代
尾関 淑子
大橋 真澄
設楽千鶴子
安藤 恭子
佐藤 信子
鈴木 靖子
辻村 弘子
栗生 英子
江花 敦子
鍵山 信子
西村 友子
田部ふさ子
戸谷美佐子
渡辺 幸子
矢波 照代
小松美津子
星 貴美子
三神 和子
飯島千鶴子
岡戸 武子
今野千代子
大西佐知子
原田 泰子
永井美重子
曾根田裕子
三宅 司津

7. ロ・共同者

あり73% なし24% 無回答3%

7. ハ・指導教授

幸坂	14	田中	1
松本 洋(労働省)	2	淡路	1
村田 豊文	2	中村 佐一	2
勝木	1	永井 三郎	1
南 博	14	社会福祉大の先生	1
我妻 栄	3	井村 恒雄	9
小山 栄三	11	平賀 孟	7
山極	1	松島 正儀	9
木田 徹郎	3	遊佐	1
有賀喜三衛門	1	加藤 正明	2
高月 東一	5	八木	1
大畑	3	加藤 周一	2
一番ヶ瀬康子	3	厚生省の方	1
篠崎	3	菅 支那	3
前田 栄	3	松本 武子	3
吉沢 英子	3	森野 光美	1

7. ニ・卒業論文で苦勞したこと

- ・参考書類，データーを集めるのに苦勞した 13
- ・論文の形式すら判らず範囲を広げすぎ表面をなでた感じである。 7
- ・基礎教育もなされてない学力不足，卒業論文などというものでなかった。 5
- ・参考文献を読むほどにテーマが大きすぎてまとめるのに苦勞した。 3
- ・文担して共同研究の為，苦勞ない。 1
- ・テーマの選択について相談出来る指導者が欲しかった。 1
- ・調査票を作ること，物資なく，交通事情も悪くお米をもってあちこち工場を廻り連絡がつかず家族に心配かけた。 2
- ・武蔵野教護院に通い性格テストを行った，教護院の先生方がとても協力して下さった。 1
- ・刑法の面のみでなく，文学的にもとらえたら人間性の問題にぶっかり，とても手におえず提出した。 1
- ・京都へ調査に行った時はお米持参でした。 1
- ・泊り込みで部落へ行き座談会を開いたら200名位人が集り圧倒された。 1
- ・思想問題をテーマにするには余りに浅い読書力，理解力に困った。 1
- ・4人共同でしたがチームワークがうまくとれず同じ力と意欲が揃わないと結果のよくないことを学んだ。

- ・卒論は1人で書くべきだと思った。 1
- ・1人で1年近くもかかってまとめたのですが友人が恋愛をしていて書けないと云うので共同にしてあげたが，結局1人でまとめました。 1
- ・与論調査を主体にしたので方々に出かける為苦勞した。人手が必要だったこと。 8
- ・集めた資料の整理が大変だったこと。 8
- ・今思えば皆たのしい思い出ばかりで苦勞したことなど忘れてしまった。 1
- ・現場が遠く実際に行って調べる時が少なかったこと 3
- ・新しい動きだったので資料がなかった。 3
- ・指導教授の専門外のテーマであったため適切な指導をえられなかった。 1
- ・文章で表現する方法に文才のなさを感じた。 1
- ・日本ではじめて養護施設の全教調査(7回生)をして注目されたが，集計分析のやり方で苦勞した。訪問調査も行い問題点もわかり勉強になった。 2

8. 研究会活動について

8. イ・学 内	ロ・学 外
研究会に入っていた 17%	19%
研究会に入っていない 58%	46%
無回答 33%	35%

研究会名イ・学内

- ・プラントのシンポジウム 菅先生を中心に5，6人のグループで英語で読み，先生に解説していただいた。
- ・心理学研究会 一冊の本を5，6人で読んで発表する。
- ・婦人問題研究会 婦人労働，意識，時間の調査を中心に勉強。
- ・里親制度について，学内文化祭展示のため卒業生にアンケートを出し発表した。
- ・映画研究会を渡辺一夫先生をアドバイザーとして作り内外の優秀映画の上映研究を行った。
- ・マルクス研究会 資本論の英文を少しずつ読んでいった。
- ・精神衛生研究会 主にノイローゼ，社会環境不適切症などの成因の研究
- ・子ども会 グループワークの一実験として行いましたのでYWCAにもよく出かけました。
- ・BBS運動
- ・聖書研究会 東大山下先生の御指導で聖書の勉強を

した。

- 放送研究会 ラジオドラマ，デスクジョッキー，番組構成
- 社会思想研究会 一番ヶ瀬先生の指導。
- 社会病理研究会 他大学の学生も入り，一冊の本をとりあげて読書会。
- 国際問題研究会。
- セツルメント奉仕
- 卒論に関する研究会活動
ロ・学 外
- 日本光学の現場へ2～3カ月勉強に通う。
- 子ども達の遊びについて，直接学校へ出かけ調査した。
- 東大や早稲田の婦人問題研究会に参加して知識や研究を深め，別の多くの学問を学ぶチャンスとなりました。
- 伝統芸術の会 戦後極端に忘却された伝統芸術その継承の必要を感じた。
- 南先生の社会心理研究所で映画の調査を行った。
- 日本大学法学部新聞学科の学生とともに①社会福祉を進める為の新聞の役割について②新聞について。
- 児童の（非行）不良化問題研究会（少年院の職員，心理学，教育学，関係者の集りで非行化の原因を究明する。
- 英会話の為の会（英語による会話，テーマはその都度きめて話しあう）
- 社会主義研究会 早大生とともに。
- BBSを通して保護，矯正，ケースワーク実習など。
- ユネスコ学生連盟
- 国連学連
- 読書会
- 書道
- 社会教育についての研究会 早大，お茶の水大教育学部の方々
- キリスト教については早大の聖書研究会
- 中央大学の夏期講座などに参加して法律を学びました。
- 南先生のゼミ 商大，早大，日本女子大の学生が主体でマスコミについての話し合いなど，結局そこでの勉強が卒業論文になりました。
- 保護観察児童のケース研究
- 学Y
- 映画心理研究所 南博先生
- 朝日児童文化の会で月1回児童文化の話を各方面よ

り伺った。

- 国際問題研究会
- 社会心理研究会

9. 当時の愛読書

乱読の時代で特定の本なし

聖書	社会思想史上・下（セリグマン）
哲学書	シュバイツァー
哲学者の手記	現代思想全集
善の研究	人世読本（トルストイ）
愛と認識との出発	青春の息のあと
出家とその弟子	社会的人間論（清水幾太郎）
哲学以前	人間の方向（南博）
ミケランジェロ	菊と刀（ベネディクト）
親らん	日本の下層社会
人生論ノート	日本の歴史
ヒューマニズム	イギリス社会史関係書
学問のすすめ	地理学，社会学関係書
学生と教養	精神衛生関係書
河合栄治郎著作集	フロイド全集，愛憎
社会政策	問題の親，子，その他（ニール）
民法（我妻栄）	人間の心（ロジャース）
学生に与うる書	トーマス・ヒル・グリーン
天野貞祐	の思想体系
女性史	日本女性史
女工哀史	夏目漱石全集
婦人論（ベーベル）	志賀直哉全集
婦人労働の本	倉田百三全集
資本論（マルクス）	随筆など
家族・私有財産及び国家の記源（エンゲルス）	阿部知二集
マルクス死後50年	愛はふる星のごとく
思想史のいろいろ	風立ちぬ
戦没学生の手記	万葉集
もののみ方（笠信太郎）	破戒
寺田寅彦全集	知と愛
現代人の研究	次郎物語
亀井勝一郎全集	細雪
小林秀雄全集	真知子（野上弥生子）
紀行文	銀河鉄道の夜
音楽概論	芥川竜之助
坂西志保	伸子（宮本百合子）
大宅壮一	友情（武者小路実篤）
雑誌 世界・中央公論	
幸福の限界（石川達三）	

草の花(福永武彦) リツ子, その愛と死
人間失格 道標, 放浪記
斜陽(太宰治) 芹沢光治良のもの
昭和文学全集 悪の華
宮本百合子著作集 車輪の下(ヘッセ)
佐田稲子 春の嵐
女流文学者の文 みづうみ(シュトルム)
登山紀行文関係書 美しき誘い()
岡本かの子全集 ベスト
智恵子抄 二十五時
堀辰雄のもの ヘルマンヘッセ全集
散文詩, 詩歌集 幸福論
荻原朔太郎 足ながおじさん
藤村詩集 静かなドン
ホイットマン詩集 チボー家の人々
狭き門(ジイド) 戦争と平和
初恋(ツルゲーネフ) バルザック全集
若き女性のために 死に至る病
海からの贈り物(リンド
パーク) シェクスピア全集
赤と黒 魅せられたる魂
愛の手紙(フンボルト) 我等の信仰(ブルンナー)
オブローモフモチナ クローニン集
チャタレー夫人の恋人 漂白の魂
若きバルク サルトル全集
カミュ 第二の性(ボーヴォワール)
月と六ペンス(モーム) 人間の心(メニンジャー)
天路歷程(ジョン, バン
ヤン)

10. 学生時代の友人について

イ. どういうきっかけで友を得たか
同じ寮
同じ級
通学の道が同じ。
席が近かった, 性格が合った。
寮生であったが日曜ごとに通学生の友達の家に向い
家庭的気分を味わせて頂いた。
学内での交渉。
施設見学で話し合ってから。
入学願書の提出が遠方の為遅刻したことがきっかけ。
読書観を話し合ううち, 寮舎で同じ部屋になり生活
を共にして。
通学生, 東京出身, 音楽を通して。
同県人, 寮生。

研究会をととして
同じクラブで
軽井沢生活の経験で, 同室又は同じ期に参加した人。
卒論の仲間
英語のクラスわけで一緒になって。
比較的生活程度が似ていた。
単位修得の時間割作成時に話をした人。
高校からのクラスメート
教育実習で一緒になって。
一日里親, 施設へのプレゼントなど荷造りや訪問な
どで。

10. ロ. 現在も交際しているかどうか。

時々会う	47
文通	37
年賀状のみ	18
クラス会の時だけ	13
全くなし(友死亡1)	5
その他電話など	3

11. 学内のいろいろな会について思い出すこと。

- ・クラス会 毎木曜日の午後リーダーを囲んでの話し
合い, 心の底まで清らかな気持ちで集った。
- ・瞑想会 月曜日の一時限, チーンという鐘の音と大
橋学長の講話
- ・縦の会 学科単位でクラス会の時間を1年~4年ま
で合同で行う。話し合い, 講演など, 上級生が立派
に見えた。
- ・横の会 自治会の中で同期(同学年)会で係別に集
る。
- ・係の会 自治会の中で福祉係, 生活係の会に属して
いた。
- ・決心会 } 軽井沢生活とクラス会の中での学期始, 末
・決論会 } の時
- ・寮舎の会 お互い思ったままの語り合いは心に残る。
- ・目白とかけて何ととく——“江の島ととく”その心
は——カイばかりといていたのを思い出す。
- ・軽井沢の修養会 学長との面接
- ・寮舎のおあそび会 劇をやった思い出
- ・西生田の高等学校の寮生活が深く印象に残り, 多く
のものを得た。
- ・上級生, 或いは教えていただいていない先生方とも
お話し合いが出来, 学校生活の楽しい一面であった
ように思う。
- ・瞑想会 “笛吹けど踊らず”の観あり, 先生方ばかり
が熱心で一体何人の人が真から其の意義を認めて

実行しているのか疑問に思った。

- 完全瞑想にふけていた。
- 小学校から女子大育ちなので学期ごとに決心と反省をくり返してきましたが20年経った今、この教育の良さを感じます。
- 横の会は楽しかった、ことにいきいきしていたように思う。
- YWCAでのクリスマス会、キャンドルサービスの雰囲気
- 寮でのクリスマス、送別の会
- バスケットクラブに属していたので練習の為にほとんど欠席した。
- 瞑想会、今にして思えば全く惜しいことをしたと思う。奏楽とあの静かな雰囲気のみが記憶に残っているのみ。
- 大橋学長の to be to do act.
- 卒業の時の結論会が一番印象的
- 級会 よくお国の紹介があったり、将来の夢を話したり、リーダー皆出席。
- 夏の軽井沢で宗教問題で自分自身の態度がなまいきと指摘されたことが印象に残っている。
- 上代学長のお話は熱心に聴講させていただいた熱の入ったお話し振りの姿が目には浮びます。
- 卒業直前の先輩の話をきく会で聴いた戸塚文子、沢村貞子両氏のお話

11. ロ. こうした会についての感想

- 学校内の生活はただ勉強だけの事ではなくお互いの交流という事が大切だと思い、いい事だと思っていた。
- 人の意見を聞くのは好きだったが、自分も云わねばならぬという気が心のしかかっている、いつも重苦しさを感じた。
- 固定した価値感の持主がリーダーの場合反発を感じた。
- 発表のときはドキドキして困ったこともあったが、掘り下げていく自分自身について知ることは非常に心が洗われる様な思いで嬉しかった。
- 各会それぞれ目的があり意義あることと思うが、大切なことは各人の自主的な気持ちが根底にあること。
- 大変有意義だった。
- 特に他校に見られない縦の会等は特に卒業後の人間関係において有難い思いをしている。
- 人前で話をするのが大嫌いだったので、当時はもっと実習とか講義に時間を使えば良いと思っていたが、今考えると、もっと積極的に発言して成長しておけ

ば良かったと思う。

- 形式的であると思った。反省そのものに人生の深を感じられなかったのは時代の故か。
- 生徒側の発言なし、全体主義が徹底していた。
- 封建的で、意見に乏しい情性に流される会であれば会を持つことも疑問であった。
- 在学中は無駄な事だと思ってましたが社会に出てから心の中に影響していたことを感じました。現在の社会状態であれば尚必要かと考えます。
- 在学当時は大変面倒くさいつながりと思っておりましたが、現在においては心のつながりの様な型で印象的で心あたまる思いです。
- 在学中はわづらわしい等と思いながら義務としてそれ等をやってきた。もう少し身近なテーマから導入していくともっと引っぱれたと思う。何かカビくさい感じがした。自分たちとは違う次限の話のような気がしてついていけなかった。
- 必要な時に必要な人が開催すればよいことで強制されるべきものではないと思っていた。
- 向学心に燃えて入学したので、こうした集団生活のきまりや枠はいささかわずらわしいように思えた。もっと学問を中心としたなにかがほしいように思っていた。
- 無駄という人もあるが、自分としてはいろいろな土地の人々との深い接触を大切に他の人々のよさを吸収したいと願っていた。
- どんな会でも学生時代の貴重な経験であった。
- よい意味での伝統的行事は女子大の特色としていつまでもつづけてほしい。
- 消極的で批判的であった。改善への積極的努力をすべきだったと反省している。
- 年令的にも環境（寮生が多い）としても、もっと個人の心を把む指導者が必要ではなかったかと思えます。失望が大きかった。
- 卒業してみるとなつかしく、もっと活発に参加すればよかったと思うが当時はあまり魅力あるものではなかった。
- クラス会は必要にしてかつ有意義なもの。
- 縦の会は共通目的達成のため有意義。
- 寮舎の会はあらためて、みなさんの知性や教養、女性らしさを痛感し楽しく参加した。

12. 実践倫理に関して

- イ. 思い出すこと
- 自発創生、信念徹底、共同奉仕は忘れられない大切

なテーマ。

- ・井上校長の力ある講義。
 - ・無限の生命 — 井上校長
 - ・学問の仕方について — 大橋先生
 - ・人格形成にはよい影響を受けた。
 - ・非常に多勢で後までなかなか声がききとりにくかった。
 - ・成瀬先生の人生観について敬服している。
 - ・井上先生の真理について、成瀬先生の教を熱心に話されたことを思い出す。
 - ・大橋先生の“民主主義について”は印象的。
 - ・大橋学長の Learning by doing という言葉が耳に残っています。
 - ・自発創生ということばが好きで今でもモットーにしている。
 - ・大橋先生の知、情、意についてのお話。
 - ・帰一宗教観に特に興味があった。
 - ・成瀬先生論
 - ・講義はまじめに出席し、ノートをとりましたが内容は理解出来なかった。
 - ・大橋学長のお声、姿、先生の講話の長時間にわたる熱心さ、当時はよく伝わらずにいた感じが現在になってその熱意のほどが味わいとなって残っている。
 - ・物質的豊かさより精神的な豊かきの尊重
 - ・編入学で2年間でしたから興味がありました。
 - ・伊藤整氏の講演
 - ・上代先生の講演
 - ・学長のお話は楽しかった。
 - ・講師よりも引合いに出る成瀬先生のおことばが頭に残っている。
 - ・成瀬先生の女子教育
 - ・成瀬先生の最後の講演について
 - ・大橋先生、野見山先生が真摯な態度で講義された。
 - ・M・R・Aの活動、成瀬先生の教えなど。
12. ロ・実践倫理に対する考え
- ・個人の考えの有無を問わず皆一様にお講義をきかされたのは井上校長の人徳と思う。
 - ・あまりにも崇拜的なムードに反発があった、もっとさりげなく、日常的な対話形式であったら若者に歓迎されると思う。
 - ・実践という名がつく以上倫理的なものを同時に活動したかった。
 - ・人格をつくる上にとってもよかった。
 - ・自由な意志に基いて心の問題について思索する事を

教えられた点非常によかった。

- ・講義のあとは心のひきしまる感じがした。
- ・指導者により有効であろうがやり方に一工夫ほしい。
- ・現在の世の中では、学生はかえって実践倫理のような授業を望んでいるのではないか（素晴らしい先生の実践倫理を期待する。）
- ・当時は固苦しい、つまらぬと思ったが、今では信念に徹した先生の姿をなつかしく思い出します。
- ・もっと近代的な思考法で講義を受けたかった。
- ・三大綱領は学生時代より卒業後いろいろなことに出会い大切な言葉と思った。
- ・当時は反発を感じたが今思うともっと真心から聞いておくべきと思った。
- ・在学中関心なかったが、現在人生にもっとも必要な学習だと感じている。
- ・今後も続けたらと思う。
- ・もっと形式的でなく、このような会がもてたらよかったと思う。
- ・その当時は大変むつかしくわかりにくいと感じましたが、今になって思いつく事があります。たとえば経験と体験について等というお話は本当に不可解でした。
- ・大変有意義なことで頭で考えても何かひっかかるものがありました。しかし女子大時代の実践倫理は卒業後20年も残り現在実践倫理のある会に入会しているのもその影響と考える。
- ・科学の特色として必要、但しやり方には工夫が必要。本当に考えさせられる機会としてほしい。学長はじめ諸先生と学生の人間としてのコミュニケーションの研究、学問上とは違う場として必要
- ・何が真理で、何が価値かわからなくなっている現代特に必要だと思う。
- ・明治時代の実践倫理を聞いているみたいでカビが生えている。創始者の考えていた原点にもどって現代の感覚で講義してもらいたい。
- ・当時は何となくおしつけを感じて出席はしても熱心ではなかった。もっと真面目にうかがっていたらよかった。
- ・世の中に出ても三大綱領にもとづいて行動し、思索しています。
- ・現在勤めている高校でもこれに似た形式をすすめて実行してもらいましたので私の生涯を通じて一番よかった時間だったと思っている。
- ・何となく緊張感のかたまりのような感じでしたがそ

- の固くるしさから脱皮出来たと考えます。小人数でテーマを徹底的に掘り下げたらよいと思う。
- 学生時代は反発を感じる講義であっても、卒業後最も印象に残り日本女子大の卒業生という自覚の根源になる課目
- 当時は必要性がなかったが、年とともにあの時間は無駄ではなかったという思いがします。
- 内容はよかったのでもっとのしい雰囲気や学べたらよかったと思う。暗い部屋の印象しかありません。
- 哲学や倫理学がよく自分の中でこなされてなければ実践倫理も余り学生にうけ入れられないのではないかな。
- 今になって考えると、適当なテキストを作り、それぞれの項目についてグループ発表させる様にして考えるチャンスを作れば、みのりある実践倫理になったと思う。
- 生活指導の理念であることにより、日常生活に生かしていかなければならない。
- 大変結構な事でも開催する側も消化する為だけに追われるのではなく、良い行事、良い講演者のあったときにやる程度でよいのではないかな。
- 在学中はいやだと思える事はあったが、現在奉仕の精神、尊敬の念、人との和など教えられた事を感謝している。
- “朝は希望に目覚め、昼は努力に生き、夜は感謝で眠る”というお言葉、今なら一生懸命に聞けるのにと残念。
- 成瀬先生の教えは今も新しく生きていると思う。本校に学ぶものはやはり実践倫理の講義を受けなければ意味がない。
- 実践倫理のたびにクラス内で討論するとか発展がほしい。
- 人生観、宗教、思想に関心がありおもしろかった。
- 若い人には抵抗あるが非常に大事なことと思う。
- さぼりたいが、さぼらなかったのは何かと期待していた。
- 強制でなく聞くのがよい。
- 何故あんなに強制されたのでしょうか。魅力があれば争って席をとっていたと思う。
- 夏休みの宿題は人生を考える大きなきっかけとなった（当時はものすごい負担、足かせの効力大）
- 私学ですから、設立の趣旨、成瀬先生の人間像、当時の社会状況を正しく伝えて頂きたい。在学中は全く無視していた。

- 上から押しつけられるものには反発を感じその最先端のもの。
 - 学生をひきつける話のしかたで行なわれるならよいと思う。
 - あまり意味ないと思う。
- ### 13. イ・運動会
- 寺島先生指導で日本式バスケットの試合をした。
 - 西生田グラウンドの赤土、デンマーク体操をしたこと、緑の鉢巻
 - 社会科が優勝した時、各科ごと色とりどりの応援。趣向をこらしたゲーム、仮装行列
 - 優勝した時の感激“固く握れる友の手に、友の手に”の科の応援歌は残っていますか。
 - この日だけは男子学生も自由に校内に入っていたような気がする。
 - かなりユニークだと思いました。
 - 思いきり走りました。
 - 自分の作詩した応援歌が科の歌としてみどりの旗とともに歌われたこと。
 - 西生回で幼稚園から大学までの合同運動会を行ったことがなつかしく思い出される。
 - グラウンドが狭く全体にもり上らなくてつまらなかった。
- ### 13. ロ、音楽会
- コーラス部の活躍、共立講堂や現在の講堂で学生による発表会を開いた。
 - 木下保先生の独唱会で先生がのどを痛められ、奥様が唱われて先生が伴奏された。
 - 音楽が好きだったので楽しかった。
 - 友人の独唱
 - 他校の人達と山田和雄氏指揮、園田高弘氏の伴奏でベートーベンの第9の合唱をした。
 - 寮生の音楽発表会
 - 巖本真理、諏訪根自子、藤原オペラ（椿姫）の演奏会を講堂で開催したこと。
 - コーラス部で早大のコーラス部と混成合唱したこと。
 - いろいろな音楽会があったが良かった。
 - セツル建設基金募集の音楽会
 - 木下保先生の熱心な指導によるコーラス。
 - コーラス部に入っていて定期演奏会の初会を開催出来たこと。
 - コーラス部員として、マネージャーとして大活躍出来たこと。
 - 卒業の年、ダークダックス・リサイタル開催

13. ハ・目白祭

- ポスターを書いて飾りつけた。
- バザー売店を開く。
- 目白祭という名称では5回生が第1回を開いたので、非常に印象的です。
- 三類館のボロ校舎までお客をいかにさそい込むかに苦勞した。
- 材料を持ち寄っておしる粉など作ったことを思い出す。
- ただ一生懸命だった。
- 研究発表の会場作りに苦勞したこと。
- いつか自作した「あの子は誰れ」を振付けてのおどり。
- 社会科の発表がよくまとまっていた。
- 50周年を盛大に祝い、コーラス部も活躍した、たのしい思い出が沢山ある。
- 外部の人に学校の内容を知ってもらいよい機会だと思うので、今後も発展させ、よりよいものにしてほしい。
- 他の学校と似たりよったりの様でした。
- セツルメントを作りたいという理想をかかげて模型を本格的な建築家の指導で作成し、立派な出来であったと思う。
- 内容のつまこみが足りないといつも残念に力不足を思った。
- 自分が参加したものについてはなつかしい。
- 女子大という事で内容のせんさいさに感心していた。
- 未来の児童センターのモデル作りをやったこと。
- 青島学園の作品を即売したこと。
- もり上げる方ではあまり努力しなかったが、いとこ達が友人を連れて来て社交的に楽しかった。
- カトリック研究会で発表しました。
- 3年の時展示の役割で警視庁に行ったり、コーラス団員として練習に追いまわされたり。
- 山谷のドヤ街の実態調査をして普通ではなかなか入れないところへ入ったこと。
- ユネスコ学生連盟で協力して展示したことは忘れられません。
- ヒロポンを扱って夜中に山谷に取材に出かけた。
- 各自真剣に打込んだ。
- 英国と日本の社会福祉の比較
- 労災保障につき他校学生と議論した。
- 写真部員として作品出品までの経過
- 学長先生が「生活保護は怠け者を作ることもありう

る」と云われた言葉

- 一つのテーマのもと、クラス全員が結集したこと、一番ヶ瀬リーダーを含め誇りに思えた。
- 社会保障について一生懸命勉強して発表した。
- ハッスルしたが、自分の中にあり残るものなし。
- 自分の分担した教護院の事を思い出す。
- 子ども達の危険なオモチャにつき研究、雑誌に掲載された。
- 国際問題研究会としての展示

13. ニ・その他の会

- 寮舎だけの会が講堂で催され良く出来てほめられた。
- 演劇キュレル作「聖女の裏面」を上演。講堂で自主公演し、利益金で講堂の照明器具を揃えた。
- 菅先生の帰国歓迎会、大学昇格祝賀会など楽しい思い出です。
- 英文科の劇
- 卒業時報恩をこめて、セツルメント基金募集の為インド舞踊の会を開いたこと。
- 講演会でクルト・ウエスが来学した思い出がある。
- セツルメント基金募集のためダンスパーティーや芦野宏、花柳秀さんの協力により成果をあげた。
- 「社会福祉」の機関誌発刊会（5回生）
- 体育館が出来開館の催しを盛大にやった。
- 放送研究会でラジオドラマを制作、公開放送をした。
- 友達が演劇部で「絵姿女房」の主役をした。
- クラスでの遠足

14. その他の行事で思い出すること。

イ・学内生活

- 入学式後いろいろな行事があり感銘をうけた。
- 兵器補給廠への通勤が学生生活
- よく授業をさぼって東大公開講堂に通った。
- 友達とよく話し合った。
- 1年の時大橋学長反対の集会があるといわれ西生田よりかけつけたこと。
- 社会福祉科の必修課目に不満で内容の充実をはかるよう何度もクラス会を開いた。
- 他の女子大に先がけて大学に昇格するとの事で、その準備に全員よく協力したこと。
- ガンジー女史（現インド首相）が来校され講堂の入口前に立って学生に話しをされたこと（内容は覚えていないが素朴だった）
- 松本武子先生とのクラス会
- 入学試験の係、1年生の世話係など
- 一日里親を提宛して採用され、親聞者の取材に会っ

たこと。

- 卒業記念行事をするのに大橋学長になかなか許可がいただけなかったり、生徒間の協力に苦労したものです。
- 授業以外は全くコーラス部の明け暮れであったこと、それは今でも続いているので貴重なスタートだったと思う。
- 自治会委員長選挙、私共が始めたことでした（5回生）
- 三泉寮の生活
- セミナール
- 3年の時新1年生のオリエンテーションのリーダーになったが何もわからず、かえって案内されたこと。
- 何と云ってもバスケットクラブの練習が苦しかったけれど楽しかった。インターカレッジに東京代表で出た事が良い思い出であった。
- コーラス団員としての演奏会活動。
- 教生に出るとき、4年生全体がビーンと緊張したような気分になったこと。
- 自治会主催フォークダンスの会
- 卒業直前に行ったクラス全員の伊豆旅行と箱根（卒業旅行）、北海道旅行（修業旅行）
- チャリティー音楽会の開催
- 山岳部の活動
- 軽井沢三泉寮での生活

14. ロ・寮舎生活

- 主婦になって、寮の人の事を考え、自分より全体を考え、人の為に尽す事、よく気のつく人になろうと努力したことを思い出す。
- 新入生の歓迎会・送別会等楽しい食糧の中で工夫して会の演出をした。
- 作業の疲れをいやすだけの生活
- 戦戦後は友情が育った。
- お誕生会、お月見会、クリスマス会など年に何度かのお遊びの会、パーティ形式の会など楽しみであった。
- 寮対抗の音楽コンクールあり全寮集って行ったのも忘れられない。
- 舎監（出野先生）の懐のきびしさは今、ありがたさを感じる。
- 音楽会にいき遅く帰寮して寮母先生に叱られた。
- 西生田で一学期間寮生活をした。食糧事情は悪かったが、学年末のささやかな寮祭は楽しかった。
- 就寝前の点呼が思い出される。

- 食糧事情の悪い時だったが、それなりに努力して良い食事を作ってくれた。女子大の家庭的な愛情（特に寮監の中谷貞子先生）が一生忘れられない。
- 寮の親睦会「おあそび」
- 瞑想の時間に電灯を消して眠ってしまった。お主婦様の仕事はとても楽しいやら面倒だった。
- 私は寮生活はしなかったが友人がいて共に泊りこんで活し合ったこと（寮監にことわれば快よく許可してくれた）
- 寮生委員会で寮祭を実現したこと。
- 卒業生を送る会、クリスマスの集り入寮の集いなど、食糧不足の中をいろいろ工夫してごちそうを作り、50円 均一の贈り物の交換やゲーム、劇など大変たのしかったことを思い出す。
- 毎夜のお集り、成瀬先生の命日の墓参り、
- 「お主婦様」とか「○○子様」とか云う呼びなれぬ言葉と仕事はいつでも忘れられません。
- 私は自宅通学で寮の経験はないが友人より耳にしていた日本古来の伝統ある習慣など（お月見の行事）ぜひ日本女子大の特色ある寮という事で残してほしい。
- 同じクラスのみでなく、上下の友人、他の学科の方々とも知り合いになれ楽しい事が多かった。
- 食事がまずくて困った。大勢一緒の入浴も苦痛だった。派閥みたいなものがあって生活しにくかった。クラブの練習で特に9時帰寮を許されていたので同室の方以外とあまりつき合わなかった。
- 学生生活を彩る生活の節ともいべきものでした、いろいろのパーティなど楽しいばかりでなく、生活技術、生活のちえ、精神面での豊かさなど多くを教えられた（今はどうなっているでしょう）。
- 成瀬先生のお墓の掃除に行ったことが印象的です。
- 毎年の例としてメーデーの日は寮から遠出を許されなかった。又それを素直にうけいれていた私共
- 特殊限定用語のコミュニケーションは共学校出身の中性的自分には苦手だった。
- 都の消防署より3分で全焼する寮と折紙つき木造で、雨戸や障子はいつも人工的に操作した（風雨のたび）
- 自分の人間形成、人の観察、刺戟等プラスのもの多かつたのしかった一語につきる。
- 卒業生を送る会、私達の学年はまだふり袖を着た
- 上級生に見習って手早く丁寧に掃除をした体験、障子張り等、今も大変役に立つ、当時のような寮生活が廃止されたとか、残念である。

C. 卒業後について

1. イ. 卒業後すぐ

就職した	70名
就職しない	7名
無回答	39名

1. ロ. 卒業直後の就職先名

職名と期間

○ 45 回生

進駐軍関係	18カ月
日本女子大助手	約5年
市役所職員	約1年
豊橋労働基準監督署	1年
厚生省児童局母子衛生課雇	約17年

○ 46 回生

日本社会事業大学助手	約3年
NHKプロデューサー	12年
高島屋東京支店係長	10年
会社事務	1年
高等学校非常勤講師(社会科)	1年
厚生省統計調査部	2年6カ月
商工省(通産省)総務局	2年
教員	23年
昭和電工事務	27年
秘書課	1年9カ月

○ 47 回

日本女子大事務室庶務課	1年8カ月
日本女子大事務	1年
日清紡績KK	1年

○ 48 回

高等学校家庭科講師	10年
事務員	2年
法務教官	23年

○ 新1 回

外国系貿易会社	8カ月
労働省婦人少年局	6カ月
貿易会社	1年
日本女子大図書館	1年
東宝株式会社文芸部	5年半
日本毛織中山工場寄宿係	2年8カ月
三井信託銀行外国為替課	1年3カ月
法務教官(少年院教官)	2年間
会社事務員	3年
秘書	10カ月

○ 新2 回

日本女子大助手	4年間
東洋大学理事室	2年
幼稚園教諭	1年2カ月
雑誌編集部	6カ月
貿易会社	1年5カ月
中学高校社会科教諭	15年
東京YWCA(有職婦人部)	21年
ラジオ東京(現TBS)	3年
企業事務	1年

○ 新3 回

日本能率協会(社団法人)	1年半
養護施設若松園指導員	1年
東京基督教女子青年会	5年
TBSプロデューサー	8年

○ 新4 回

会社	
附属豊明小学校教諭	10年
公務員	6年
東洋レーヨンKK	12年

○ 新5 回

中学校教諭	3年
映画世界社編集部	1年半
大学厚生部長秘書	3年
埼玉県庁(報選文化課)	1年
保育園保母	2年
まどかぐるーぷ企画部マネージャー	4年
都, 教育庁社会教育部青少年教育課	1年
東洋レーヨン人事課	6カ月
東京都立学校教諭	
ソーシャルケースワーカー	4年間
地方公務員ケースワーカー	9年

○ 新6 回

ケースワーカー	2年
農林省統計調査部	約2年
鉄道弘済会リハビリテーション編集	4年半
医療ケースワーカー	2年半

○ 新7 回

会社事務員	2年10カ月
地方公務員	17年
児童福祉施設指導員	2年
医療ケースワーカー	約3年
日本民間放送連盟	2年半
労働省婦人少年局婦人児童課	1カ月

○新8回

日本女子大教務課事務職	約4年
教諭	7年
編集	9カ月
東海テレビ制作部社会課ディレクター	1年半
鉄道弘済会社会福祉部	14年
県庁職員	1年半
文化放送	5年間
秘書	2年半
医療ケースワーカー	1年3カ月

1. ロ. 紹介者

紹介者	先生	リーダー	知人	友人	大学の就職相談課, 父, 兄, その他 女学校の恩師, 自分で, 新聞広告
人数	23名	6名	31名	3名	20名

- ・農村の問題を卒論の延長としてももう少し考えたいから。
- ・就職難だったので社会福

1. ハ. 職業を選んだ動機

- ・英語が好きだった
- ・他に職が決まっていたが先生に学校に恩返しする義務があるといわれて。
- ・工場管理に適当と考えた。
- ・数学が好きで, 又社会福祉につきもっと勉強したいと思った。
- ・社会に奉仕するという気持が強かった。
- ・男女同一賃金, 同一労働であったから。
- ・社会を実際に見たくて。
- ・研究室のようなところで女子大生を要望していた。
- ・就職にぜい沢の云えぬ時代で何となく。
- ・知人が紹介してくれたので。
- ・卒論で調査に行った会社の社長から懇願されて。
- ・婦人問題の研究を生かすため。
- ・学校にまだ残っていたかったの。
- ・卒業の時, 当時の三田庸子女子から菅先生のおすすめで。
- ・社会の動き或は世界の動きが速かに感じられるような職場で, しかも自分自身の責任で考え作ることの出来る仕事だから。
- ・就職難の時代で職種を選ぶ余地はなかった。経済的自立を希望していたのでたまたま紹介者のあった会社を選んだ。
- ・福祉事業は事後的, 教育は予防的ではないかと考え出した時, 恩師よりすすめられたので,
- ・マスコミ関係で働きたかったから。
- ・科で学んだことが活かせ, 役に立ったらよいと考えて。

- ・教育実習をして子どもとのふれ合いから教育に関心をもったこと。菅先生におすすめていただいた為。
- ・父の友人がすすめて下さいました。
- ・子どもの時から先生になりたいと思っていたので, 教育実習で先生の職業に生きがいを感じた。
- ・編集の仕事が好きだったから。
- ・勉強したことを生かす為と東京に残りたいため。
- ・先生から試験を受けるように云われたたまたま合格したので。
- ・大勢を相手にする仕事は若手で1対1で出来る仕事, 人間の心理の複雑さに興味を持ったこと。

祉が生かされればよいと思って。

- ・母校のお手伝いが出来るならと考えて。
- ・男子校が男女共学になり女生徒の為講師になる。
- ・家で遊んでいてももったいないと云われて。
- ・桜会の大先輩が後継者として待っていた。
- ・施設の事務局長に推せんされた。
- ・本来は医者になりたかった。病気に伴う人間の悩みを少くしてどうしたら幸せになるか関心があった。
- ・男女の差なく民間放送とNHKが作った全く新しい分野だから。
- ・婦人労働問題に興味を持つ先生よりご紹介いただいた。
- ・Mケースワークを希望したが適当なところがなかった。
- ・地方公務員試験に入ったので。
- ・放送関係の仕事をする事は小学生時代からの一貫した希望だった。
- ・教育実習で実際に生徒に触れて生徒に愛情をもった。

C. 1. ニ. 職業の条件について

給料	1500 6700	6000	7000	8000	9000	10000	12000	13000	15000
数	6名	4名	4名	11名	4名	8名	2名	1名	1名

勤務時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間	24時間	週40時間	週45時間
数	1名	3名	57名	2名	新卒1名	兼務2名	1名	3名

有給休暇	あり	なし	無回答
数	58名	11名	1名

C. 1. ホ. 科で学んだことが役立ちましたか。

- 施設に就職したので役に立ったと思う。
- 直接的には役立たなかったが、一つ事に対する解決方法を見つけ出すには充分役立っている。
- 社会心理学で観客調査の仕事をしていたため、そのまま役立ちました。
- 社会科の教職の資格をとっていたので、それが活かされた。
- 形にはあらわれていないが無形の影響はあると思う。
- 直接にはすぐ役に立つとは思えないが心の支えになったと思う。
- グループワークそのものは実践ですので学校で学んだ講義は記録の面ではすぐ役立ちましたが、リーダーとしての必要な広い知識と経験は学んだ学科そのものから直接役立てられるというものではないように思う。
- 人事、厚生、保険の仕事だったので役に立つことが多かった。
- 当科で学んだからこそケースワーカーとして働けました。
- 全く役に立たなかった。
- 専門ではかなり役に立つ。

C. 2. 職歴について

イ. 現在までの就職状況

就職した	76名	66%
就職しない	20名	17%
無回答	20名	17%

2. ロ. 転職数と勤務年数の関係について

年数	1年以下	1～2	2～3	3～5	5～10	10～20	20以上	計
第一回	8	33	11	16	10	8	2	78
第二回		7	6	1				14
第三回		5	4	6	4	1		20
第四回		2	4	4	2	2	1	15
第五回			1	1	2			4
第六回		1	4	2		2		10
第七回		1						2
第八回			1		1			2
第九回		1						1
第十回			1					1
第十一回								

注：a. 仕事を一つづける人
b. あと仕事をもちなかつた人

C. 3. ボランティア活動

した	しない	無回答	計
30名	71名	15名	116名

- 灘生活協同組合支部委員
- テープライブラリー
- 公民館カウンセリング
- 特殊児童施設の会会員
- 養護施設の奉仕
- 家裁調停委員
- 放送作家協会外国部委員
- 日本ボルトガル協会常任理事
- 非行少年保護（BBS）
- 肢体不自由児キャンプ
- 保護司（法務省）
- ワークキャンプ、日本フレンズ奉仕団
- 教会役員
- 都、教育委員会青少年教育部研究員キリスト友会日
本年会
- 消費生活モニター
- 教育センター
- 問題児の補導
- 地域の児童文庫活動
- YWCAグループリーダー
- ガールスカウトリーダー
- いのちの電話カウンセラー
- 茨城放送、県内のPTA読書活動ラジオ司会
- 市、社会教育課学級リーダー
- （盲人の為の）耳から聞く図書館
- 保育所運動
- 米国の学校施設ボランティア
- 婦人団体役員
- 日本リューマチ友の会代表理事
- 婦人会の世話
- 母子福祉事業団、障害児（各種の）治療教室
- 盲人の方に朗読奉仕
- 市政モニター
- 市教活動個人宅奉仕
- 重症身障児と作業する。
- PTA役員、役職

C. 4. 卒業後進学の有無

進学した	進学しない	無回答	計
21名	64名	31名	116名

ロ・進学先	
慶応外語学校	英語
リングストクラブ	(留学・イギリス)
津田塾	タイプ科, 会話
アテネフランセ	フランス語
中央大学	法学部法律学科
文理大	哲学(聴講生)
池田洋裁(夜間)	洋裁
洋裁学校	洋裁
サロンドジャポー	制帽
村田簿記学校	簿記
日本不動産学校	宅地建物取引主任者科
東京経営経理学校	簿記, 会計
日韓親和会	韓国語
カクテルスクール	ワイン
社会福祉と成人教育	スウェーデン, イギリス
	米, 留学
日米英会話学院	英会話
東洋大学	国語, 国文学
青山学院大学	教育学科
日本女子大学通信教育学部聴講生	
東京イングリッシュセンター	英会話
東京学芸大学	特殊教育
洋裁学院師範科	
料理学校西洋料理	
千葉准看護婦学校	
女子美術	製図専科
洋裁学校	研究科
指導音楽	歌唱指導法
武蔵野音楽大学	音楽指導教員のための講習

5. 資格取得の有無

イ.	資格取った	資格とらない	無回答	計
	58名	43名	15名	116名

資格名

英語検定 2級	1
華道(草月流 小原流 池坊他)	26
茶道(裏千家 表千家他)	
アマチュア無線	1
映画技師	1
運転免許 普通6 大型1	
彫刻	1
書道師範	8

衛生管理者	3
長唄	2
身障者福祉司	1
簿記検定2級	1
珠算 3級	1
韓国語 中級	1
損害保険普通資格	1
バーテンダー	1
ガールスカウト指導者資格	2
国語科 高校2級 中学1級	1
社会科 高校1級	2
小学校教諭 1級免許	2
幼稚園教諭 2級免許	1
家庭科中学校2級免許	2
保母	5
着物着付講習	1
電話カウンセラー	2
一流きものコンサルタント	1
フラワーデザイン	2
アートフラワー	2
全日本人形師範会師範	1
真多呂人形師範	1
三絃 奥伝	1
社会福祉担当講師	1
准看護婦	1
校正	1
おどりの名取(藤間流, 花柳流)	2
短歌同人	1
長唄	2
料理	2

6. 表彰等について

あり6名, なし53名, 無回答57名

・録音奉仕 団体表彰	1名
・ポルトガルとの親善に尽した。	1名
・日本映画テレビ製作特別賞	1名
・大学婦人協会, 研究に対して。	1名
・精薄児の社会的予	1名
・リュウマチの向上に貢献した。	1名
・愛光女子学園永年勤続(10年)	1名

7. 著書・論文・文集など

書名と発行年時	
児童福祉概論	昭和49年4月
堀木訴訟と併給, 禁止違憲判決の意義	
	昭和47年9月

日本人の社会意識（共著） 昭和44年
 婦人と労働（共著） 45年
 家庭科教育研究序説（共著） 48年
 保健と科学「ソーシャルワーカーの現況と問題点」

昭和47年
 日本精神身体医学会「主婦の神経症」 49年
 養護原理 41年
 社会福祉論叙説 48年
 児童福祉 49年
 民間相談機関における短期接触ケースについて

昭和47年
 合同歌集 輪唱 48年
 浅草寺福祉会館年報 昭和49年9月
 生活の中にボランティアを（共著） 昭和48年
 普通学校における特殊学級の指導（共著）

昭和32年
 精薄児の社会的予後 38年
 職業的自立と家庭指導（精薄児研究8月号）

昭和49年
 昭和の婦人福祉 48年
 ボランティア活動の実践 48年
 保育所における乳児保育 昭和44年5月

8. 結婚について

結婚した	結婚しない	計
103名	13名	116名

結婚年令	才	20	21	22	23	24	25	26	27
数	1	2	21	15	14	20	12	3	

	28	29	30	32	37	44	不明	計
	4	2	3	2	1	1	2	103

子ども	有	97
子ども	無	6

配偶者	有	98
配偶者	無	5

子どもの数	1名	2名	3名	4名	計
数	12	62	21	2	97

9. 現在誰と住んでいるか

夫と子供 70 夫の姉と夫婦 1
 姑と夫と子供 11 実母と夫と子供 1
 両親と夫と子供 7 姉一家と夫と子供 1

1人 5 母と 1
 配偶者 4 夫と母と 1
 両親と自分 5 他家族と他1人 1
 子供と（夫単身赴任）3 無回答 4
 母，姉，妹と 1 計 116

10. 自分を生かすために何かしているか、どうか。

華道 7 和裁 2
 茶道 10 ミシン刺繍 1
 書道 16 フレミッシュ織 1
 画（油絵，南画，日本画）はた織，機械編 1
 染色 2
 洋裁 6 俳句，俳画 4
 カウンセリング 2 発声 1
 小唄，長唄 2 皮工芸 2
 エレクトーン 1 地域の学習に参加 2
 語学（英語，中国，ポルトガル，スペイン，韓国） 1 制帽 1
 英会話） 9 江戸和紙人形 1
 コーラス 7 鎌倉彫，木彫 2
 盆石 1 料理 2
 盆石 1 ピアノ 3
 編物，手編 2 ゴルフ 2
 陶芸 1 手芸 1
 歌沢，口笛 1 園芸 2
 七宝焼 1 短歌 2
 謡曲 1 みゆきフラワー 2
 日本舞踊（藤間流） 2 ラボチューター 1
 ガールスカウト 2 水泳 1
 レジンフラワー 1 モダンバレエ 1
 三絃，琴曲 2 読書会 5
 童話づくり 1 婦人労働問題 1
 児童福祉上の研究 1 社会福祉関係講座学習 1
 家事調停ケース研究 1 外国の先生との文通 1
 児童文学文庫活動 1
 文化人類学，中国文学 1 心理学 2
 レコード音楽に関する趣味を仕事にする
 天理教の教理の勉強と実践
 音楽に関すること一朝日カルチャーセンター
 教育問題
 日本の歴史，歴史の会 2
 なし 8
 無回答 8

11. 現在所属している団体名

- BOC会員
- 鎌倉婦人同窓会
- 玉藻会（俳句）
- 西宮カウンセリング研究会
- 淡交会（茶道同門会）
- 社会福祉学会
- 日本法社会学会々員
- 社会保障研究会
- 全国障害者問題研究会
- 障害をもつ子どものグループ連絡会
- 未熟児網膜症の子どもを守る会
- 日中友好協会
- 婦人民主クラブ（再建）
- 保育問題研究会
- 家裁婦人研究部会
- 日本精神身体医学会
- 日本ソーシャルワーカー協会
- 日本医療社会事業協会
- 矯正関係の研究会
- 実践倫理弘正会
- 埼玉県ケースワーカー協議会
- 全国家庭児童相談員連絡協議会
- 日本社会福祉学会
- 大学婦人協会
- 児童安全学会
- みどり会
- 池坊華道研究会
- 家族問題研究会
- 家庭相談研究会
- 日本児童学会
- 大阪YWCA会員
- キリスト教友会日本年会
- 大阪日米協会
- 市立高校連盟婦人部
- 婦人国際平和自由連盟WIF
- 日本教職員組合
- ガールスカウト日本連盟
- TEC言語事業団、ラボ教育センター
- 婦選会館、理想選挙市民の会
- 日本リュウマチ協会及友の会
- 桜楓合唱団
- MSW研究会
- 日本女子栄養短期大学綾の会

• 日本精神薄弱者研究会

• なし

12. 現在より考えて当学部に入って

良かった	悪かった	その他	無回答	計
70名	5名	12名	29名	116名

12. イ. 良かった理由

- 職場で上に立つ者としてやはり役に立った。
- 最近福祉問題がクローズアップされているが25年前に既に開眼されていた点
- 家庭内のみの生きがいで終らなくなったこと。
- 基礎知識不足であっても、その水で育った者としての力強さ。
- 自分の興味のない分野に偶然に入れられて新たな面に自分の眼を開いたこと。
- 社会的問題や社会福祉に関心がもてる。
- よい友達が得られたこと。
- 社会を見る目が深く考える習慣のもてたこと。
- 社会的問題に対する強い意識を持ちつづけることの出来た基盤は当時培われたものだった。
- 菅先生始め立派な先生、良い先輩に会えたことは良い。
- 社会的知識を得たことは生活にプラス
- 男女同権の意味を教えられ女性の地位向上に目ざめた。
- 家政科の授業も結婚後役に立っている。
- 社会的関心を常にもち、奉仕したいと考える。
- ボランティア活動等も理解しやすい。
- いつまでも政治問題社会問題に深い関心がある。
- 視野を広くとることが出来る。
- 志を共にする友人を得たこと。
- 家政科の勉強もしたので社会に出て仕事をする上で片よらずによかった。
- 在学中は総花的で浅く広くの観があるが、方向付けをされた4年間と考えると他の科に行くよりは良かったと考えている。
- 戦後の混乱期に大学に行って勉強出来たので自分の全く知らない社会のあることを知り世の中に不幸な人が多いことを知った。
- 悪かったとは思いますが、自分には自然科学分野の方がむいていたと思う。
- 福祉問題について何時も考え、お茶の間評論家となって元気を出していただけること。

- 精神衛生というものを知る機会に恵まれたこと。
- 卒業生とのつながりが社会的関係の上でもてること。
- 現代社会の要求に何らかの意味で、形態で対応できる姿勢を学んだこと。
- 法律でも経済でも入門又は概論でしかなかったが、これから勉強していく上で手がかりになってよかった。
- 人間の生きる権利について真剣に考えたこと。
- 自分の志した道に或程度の基礎知識及应用方法を開拓しうる力をもって生きられるから。
- とかく世間知らずになりがちな学生々活の中で多少でも社会に対する目を開いたこと、そしてそのことは今も続いています。
- 将来ボランティア活動をしてみたいと思っているので良かったと思う。
- 新入社員教育、日常指導、管理面でグループワークが役立った。
- みどり会が出来てタテのつながりがあり大いに啓発させられる。
- 少くとも自己本位でなく他人の事がすこしは、わかる気がしています。
- 現場実習や見学があり社会の一端にふれられたことは大変よかった。
- 自分の生き方を確立することが出来た。
- 現在携わっている仕事の中に自然に身についた社会福祉の考え方が生かされていると思う。
- 子どもを育ててみて、人間関係、家族関係等人間を正常に成長させるためにどうあるべきか非常に役立っている。
- 恩師との出会い、今も素直に話せる友を得たこと。
- 学生時に関心をもった事柄が今尚クローズアップされていること。
- 前向きな姿勢を学べたこと。
- 社会の底辺に生きる人々の事を考える眼を養ったこと。
- 職業的自立に役立ったこと。
- 離婚し単身者となったとき、専門職であるMSWの仕事ができた。
- カリキュラムに不満はあったが、それらを土台にして自主的に学習もした。

12. ロ、悪かった理由

- 何の技術、深い認識が得られなかったこと。
- 現在の生活に何も役立っていないこと。
- 自分の能力を発揮する方向に行けなかった哀しさ

を思う。

- 転科しないで物理化学の道を完全にマスターすべきだったと思った。
- 入口だけ学んできた社会福祉科の学問が、日本の現状には合わないし、市民感覚からずれていると思われることがあり功罪半ばする思い。

12. ハ、その他

- まあまあ、どちらとも云えない。 4
- あまりまとまった勉強が出来なかった、いわゆる社会科なのか福祉科なのかどちらも中途半端で 2
- 社会に出て職業とする場合に中途半端で資格がないこと、家政学部でありながら内容はそうでなくてどっちつかずであったこと、自分自身の勉強不足もありましたが 2
- 現在の職業（教職）に深く関連する事をするべきであったと思っている。 3
- 良かったと思われることが多いが、一方私の場合社会奉仕しか出来ぬ人間になりました。インフレの世の中、自分に経済力があればもっと奉仕活動も巾広く出来るのと思います。

13. 最近の社会的な問題で関心の深いもの

- 国際状況、韓国、世界の人口問題、食糧問題、資源と節約、ウォーターゲート事件
- 仏、米の政局の変化と動向
- 資源枯渇と国際関係
- 老人仲間づくりの問題
- 児童と老人の福祉
- 戦時中とは違った意味での人命軽視（嬰兒の遺棄、学生運動）
- 思いやりの気持がうすれていること。
- 核家族について考えさせられる。
- 身障者保護の問題
- 物価問題
- 公害問題と環境破壊
- 教育問題（教員の位置、進学、内容など）
- 学生運動特に過激派の種々の行動
- 人権の自由
- 女性の地位
- 青少年の非行
- 児童の権利の侵害と養護の状況特に障害児の問題
- 税金の高いこと。物価高
- 寝たきり老人の看護
- 食品公害

- 政情不安，テロ行為
- 住民運動（日照権，公害等）
- 医療，年金
- 人間本来の姿に対する未来への長い眼の政治，展望
- 政治家の貧困さ
- 男女平等，女が仕事をつづける条件をどう作ったらよいか
- ニクソン弾劾，日本の政治
- 教育のあり方，ボランティアの問題を含めて共同社会の処理の具体的展開（Community Cure）の仕方など
- 健康なうちはよいが働けなくなったときの医療問題
- 家族間の葛藤
- 日本の将来という展望から子どもの躰，受験競走，要するに教育の問題
- 社会保障制度について20年経った現在も，なお同じような状態にある。
- 医療制度とその対策
- 自分の老後，女子大でも老人ホームを創設なさいませんか。
- 共働きとカギっ子
- 教育機構のあり方
- 自然保護問題
- 宗教心の喪失
- よりよい社会福祉国家とはどういう姿か。

14. 現在の学生に期待すること

- 大きな視野に立って世の中を見つめて欲しい。
- 卒業後の生活に生かせる様，しっかりした知識，技術を身につけてほしい。
- 社会福祉の研究は勿論，政府，社会の経済力を福祉事業に向けさせる様な実力をそなえてほしい。
- 確固たる信念をもって理論とともに実践出来る人。
- 大学で学んだことを生涯の仕事として社会に役立ててほしい。
- 社会福祉を経済的な観点から研究され，事業に携る人の賃金の向上をどうしたらはかれるか研究してほしい。
- 日本だけでなく世界の福祉を必要とする国々の人のことも考えられる様な大きな包容力で考え実行する眼を養ってほしい。
- 学べなかった人たちの為に，学んだ人間，知った人間のすることはねばり強く実践し，いっしょに行動しながら未来の展望をきりひらく役割があると思う。

- 何事でも自分の一生打ちこんで悔いない仕事をみつめてほしい。
- 実習生を引受けて感じることは「～してやる」「～ 助けてやる意識が強いこと，めまり肩を張らないで実践活動をしてほしい。
- 最近矯正の現場（少年院，刑務所関係）に進まれる方が少ないのが残念です。頭デッカッチでなく体で仕事にブツかる姿勢で社会に出て活躍してほしい。
- 学生時代に何かエキスパートになる土台をもっとしっかり身につけて社会に出られるように，与えられるままにでなく，自ら開拓していくことが大切
- 職業意識をもった社会人として自分自身にきびしい人間になってほしい。
- 古い伝統をもつ日本女子大の社会福祉科の学生としての自覚と卒業後の活躍を期待します。いろいろな部門でまだまだテクニシャンとしての資格が認められていない現状を打破してほしい。
- 先生方との接触を密にした方がよい，即ち欲張りの勉強法
- 学生時代は真面目に勉強すべきです。世の中に働かかけるのはその後で良いと思います。勉強が出来るかどうかでなく，自分の為に積極的に知識や教養の出来る限りを蓄積することがチャンスだと思います。やはり学べる特権は学生にあるのですし，時間や精神力，体力，全て若さとともに貴重な時だと思えます。
- 学んだことを生かす努力をたゆみなく続けてほしい。他校の学生もよく勉強しています。頑張ってください。
- 語学の勉強はしっかりやって下さい。
- 個性ある特技を身につけ，地域社会での福祉向上のために活躍して下さい。
- 学生時代は専門家，学者など出来る限り女子大の力で集められた人的資源を利用して学んで下さい。貧欲に先生方にくいつき世の中を，人々を知る努力をお忘れなく。
- 40才になろうとする今，本気でもう一度勉強出来たらと思う。
- 自学の習慣を身につけること。
- 語学力をつけ，社会福祉関係の文献も原書で読めるぐらいでなければと思う。
- 在学中から卒業後の進路を早めに決め，地味でよいから自分の能力を生かしてほしい。
- 視野を広げ，着実に足もとを見つめて学んでほしい。
- 関係学問の基礎を体得すること，法律，経済，社会，

教育、語学力、子どもの扱い方と同時に福祉の精神を学びとり、頭をやわらかく、何事にも敏感で進取的であってほしい。

- 専門職に生き甲斐を感じてそれぞれの場で一灯をともし人であってほしい。
- 社会福祉の分野、関連分野に進出し、長続きさせてほしい。

15. 学んだことで現在の生活に生きていると思うことから。

- ボランティア活動等にいくらか関心をもつことが出来る。
- どんなことでもくじけない心を持っている。
- 人の為に生きること。
- カウンセリング研究グループに参加したこと。
- 社会におきているいろいろの事柄に興味をもち、関心を持つことが出来る様になった。
- 社会、隣人のため何かをしたいと云う気持ちを常に持っている。
- 貧困な今日の福祉政策に批判的な眼をむけられること。
- 各福祉施設を見学により知って居り大きな視野に立って物を考えられる。
- 社会に活躍している先輩、友達に接することが出来る。
- 社会心理学を学んだことにより、現在ホールの企画運営にとっても役立っています。
- 社会の底辺で生きている人が如何に多く、将来何等の形でその人達の為になることをしたい。
- 具体的にこれといってあげられないが、全般的なものが今の生活の背景となり生きているのだと思います。
- 教育、対人関係における精神衛生的なものの見方が役立っているように思う。
- 各々の教科が時代的变化はあるにしても現職に直接生きている。
- 高校教諭として生徒の生活指導の面で生かされている。
- 市民感覚が普通の人より強いかなと思うことと新聞の社説や固い記事など苦にせず読む習慣を得たこと。
- 「一隅を照らすような人になりたい」と思い奉仕することにかすかな喜びを感じている考え方
- 児童福祉についての理解がある程度は出来ていると思えるので、現在の仕事にも役立ち生きていると思

う。特に一番ヶ瀬教授を知り得たこと。

- 家庭に入ってから子どもを育てる面においても児童心理等の知識がそのまま役に立ち福祉の知識をもって社会的情勢を見ることができる。
- 女子大に学んでといった方がいいかも知れませんが、常に共同奉仕、自分も社会の一員として加わりたいということ。
- 今迄は育児に追われましたがそろそろ自分の時間が持てるようになったので、これから奉仕活動をしようと考えています。その時にはきっと学んだことが生かせると思います。
- 一口には云えないが、何か新しく事を始めようとする時の企画、実行、事後処理などに生きていると思う。
- 公平に事実を把握しようとする姿勢が培われたこと。
- 感じ方が一面的でないこと。
- いつも誰れかの手助けが出来ることに生き甲斐をもてること。
- いざという時は先づ自分がやらなくてはいけないということ
- 人間関係の調整、相手の立場を考えられる。
- 精神的、肉体的、経済的等ハンデのある人々のあること、しかもそれ等の人々も生きる権利のあるのを知ったこと。
- ギブアンドティクの間関係の扱い方
- 人間関係の大切なこと、実生活でつくづく感じている。
- 職業人として専念する意欲があること。

(1944 (昭和19) - 1958 (昭和33))

年 代	日 本 女 子 大 学 関 係	社 会 福 祉 一 般	一 般 事 項
1944 (昭和19)	<p>(4)日本女子大学校新学則により，家政学部第3類は廃され家政科管理科となる。課程3年。102名入学</p> <p>(4)〔決戦非常措置要綱に基づく学校工場化実施に関する件通牒〕</p> <p>(4)第一次勤労動員壮行会 全4年生勤労配置につく。</p> <p>(6)第二次勤労動員，1年生を除く全学生配置につく。</p> <p>(9)1年生勤労動員</p> <p>この年，日本女子大学校「学生奨要綱」発表</p>	(6)大都市の学童集団疎開決定	(8)一億総武装決議
45	<p>(4)管理科141名入学</p> <p>02 (「女子教育刷新要綱」閣議諒解事項)</p>	<p>(6)戦災遺児保護対策要綱</p> <p>(9)戦災孤児保護対策要綱実施</p> <p>00 社会局復活</p> <p>02 G・H・Q「救済並福祉計画の件」覚書指令</p> <p>02 生活困窮者緊急生活援護要綱実施 (閣議決定)</p>	(8)ポツダム宣言受諾
46	<p>(4)家政科管理科廃され，家政科社会福祉科となる。110名入学</p> <p>(6)井上秀校長日本女子大学設立に関する報告を桜楓会総会において行なう。</p> <p>(8)〔文部省教育刷新委員会設置〕</p> <p>01 教職追放により井上校長退任</p>	<p>(1)G・H・Q日本公娼制度廃止に関する覚書</p> <p>(9)生活保護法 (→昭和25)，民生委員令 (→昭和23)，主要地方浮浪児保護要綱実施</p>	<p>(5)メーデー復活</p> <p>01 日本国憲法</p>
47	<p>(3)管理科68名卒業</p> <p>(4)社会福祉科133名入学</p> <p>(4)大橋広，日本女子大学校長に就任</p>	<p>(1)全日本患者生活擁護同盟結成</p> <p>(4)労働者災害補償保険法，労働基準法，日本社会事業協会設立</p> <p>(5)第一回全国児童福祉大会</p> <p>00 災害救助法</p> <p>01 第一回共同募金</p> <p>02 児童福祉法</p>	<p>(1)G・H・Q.2.1ゼネスト禁止</p> <p>(5)日本国憲法施行</p>
48	(3)文部大臣より日本女子大学設置認可	(7)民生委員法，少年法，少年院法，優生保護法，性病予防法	<p>(1)帝銀事件</p> <p>02 経済安定九原則</p>

年 代	日 本 女 子 大 学 関 係	社 会 福 祉 一 般	一 般 事 項
1 9 4 8 (昭和23)	(4)日本女子大学発足，家政科社会福祉科は家政学部社会福祉学科となる。	(9)浮浪児根絶緊急対策要綱 (12)児童福祉施設最低基準	
4 9	(1)日本女子大学通信教育開講	(5)生活保護法施行規則に不服申立制を加う (11)G・H・Q厚生行政に関する六原則覚書き (12)身体障害者福祉法	(7)下山事件，三鷹事件 (8)松山事件，シャープ勧告
5 0	(4)文学部に教育学科増設	(5)生活保護法，更生緊急保護法 (11)全国養護施設協議会設置	(6)朝鮮戦争勃発 (8)警察予備隊発足
5 1	(3)財団法人日本女子大学校を学校法人日本女子大学に組織変更 (3)新制大学第1回卒業式，社会福祉学科新制1回生51名卒業，うち31名就職。	(1)中央社会福祉協議会発足（のちの全国社会福祉協議会） (3)社会福祉事業法 (5)児童憲章制定，全国母子対策協議会発足 (10)福祉事務所発足	(9)対日講和条約および日米安全保障条約成立
5 2	(3)社会福祉学科新制2回生71名卒業，うち41名就職	(4)戦傷病者戦没者遺族等援護法 (7)第1回全国保育事業大会 全日本精神薄弱者育成会結成 (12)母子福祉資金貸付等に関する法律	(2)日米行政協定 (5)メーデー事件
5 3	(3)社会福祉学科新制3回生52名卒業 うち27名就職 (11)1日～3日第1回目白祭開催	(5)日本社会事業職員組合結成 (8)社会福祉事業振興会法，らい予防法	
5 4	(3)社会福祉学科機関誌「社会福祉」創刊 (3)社会福祉学科新制4回生40名卒業 うち12名就職	(5)日本社会福祉学会発足 (11)生活相談全国連絡事務局結成	(3)MSA協定，ビキニ水爆実験で福竜丸被災 (7)防衛庁，自衛隊発足
5 5	(3)社会福祉学科新制5回生56名卒業 うち29名就職	(8)低所得者世帯更生資金の貸付制度創設 (11)第1回母子福祉大会	(8)初の原水爆禁止世界大会 (10)砂川事件，日ソ国交回復 (12)国連加盟
5 6	(3)社会福祉学科新制6回生44名卒業 うち16名就職	(5)売春防止法	

年 代	日 本 女 子 大 学 関 係	社 会 福 祉 一 般	一 般 事 項
1957 (昭和32年)	(3)社会福祉学科新制7回生51名 卒業 うち16名就職	(4)自治労,第1回地方自治研究全国集会(自治研) (5)低所得者に医療費貸付金制度 (5)敬老年金制度制定地域増加する。	
58	(3)社会福祉学科新制8回生54名 卒業 うち36名就職 (4)家政学部社会福祉学科を廃し, 文学部社会福祉学科となる。	(5)社会福祉事業等の施設に関する 措置法 (12)国民健康保険法(全文改正)	

備 考

- (1) 各事項の上についている算用数字は,月を示している。
- (2) 一般事項は,一般史上主要と思われるもの,とくに社会問題に関連深い事件に力点を置いて記載した。

あ と が き

この号では,すでに記した通り,家政科管理科・社会福祉科,家政学部社会福祉学科時代の資料を掲載した。

資料集としてのこの稿について御意見,御助言がいただければ幸甚である。さらに追加資料等お持ちの方は,御教示いただきたい。

つづいて,文学部社会福祉学科時代の資料を蒐集する。

なお,今年の委員は,下記の通りである。

特 別 委 員	大 照 純 子(45回)
	柴 田 英 子(新制8回)
研究室選出専門委員	一番ヶ瀬 康子(43回)
	宇 都 栄 子(新制20回)
みどり会選出協力委員	遠 藤 節 子(46回)
	田 中 美代子(新制1回)
	島 田 広 子(新制6回)